

学級活動の指導

～学級経営の「核」となる大切な授業～

埼玉県教育局東部教育事務所

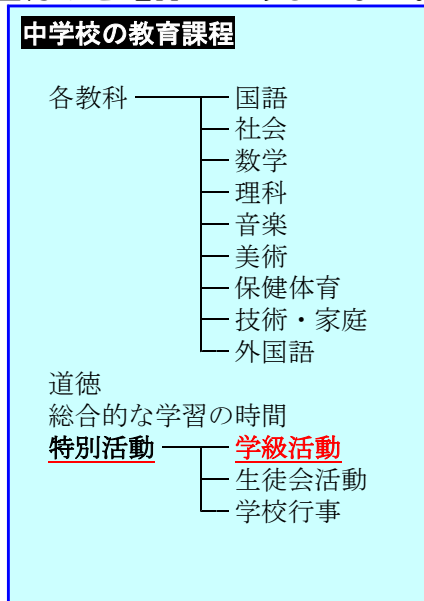
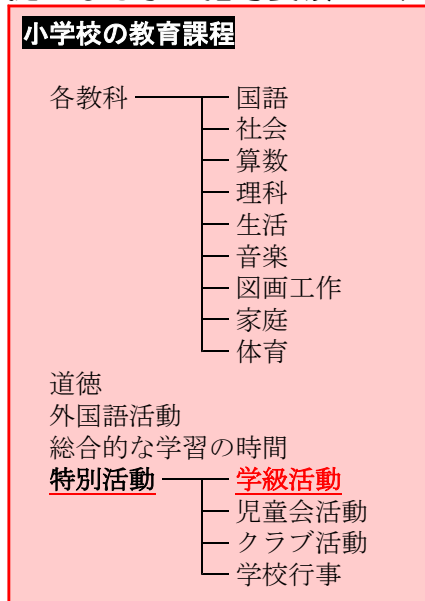
学級活動は、週に1回、小・中学校の時間割に位置付けられ、他の特別活動の内容の基盤としての性格をもつ大切な時間です。「道徳の時間」と同じく、学級担任の教師が指導を行うのが原則です（小・中学校学習指導要領解説特別活動編第3章第1節）。

学級活動については、日常の学級の児童生徒の実態を十分に把握し、それに即した指導が行われなければ十分な指導が期待できません。このため、指導者は、学級の児童生徒を最もよく理解できる立場にある学級担任が適しており、学級経営の充実を図ることが必要です。文字どおり「学級の活動」ですので、担任教師が行う学級経営が最も如実に表れる教育活動となります。学校での「親」に当たる学級担任が、「我が子」である児童生徒とともに、よりよい「家庭」＝学級を築いていく行為と言ってもよいでしょう。ここでは、学級経営の「核」となる大切な授業、学級活動の指導の具体について考えてみることにします。



1 学習指導要領上の位置付け（小・中学校の教育課程）

まず、学級活動が小・中学校の教育課程でどのようなポジションにあるのか、その根拠となる学習指導要領上の位置付けを確認してみましょう。



小・中学校の教育課程は、学校教育法施行規則により、左図のように編成されています。

大きく各教科、道徳、特別活動（小学校は、これに外国語活動が加わる）の、小学校は4領域、中学校は3領域に分類され、これにこれらの枠を超えた横断的・総合的な学習を行う総合的な学習の時間を加えた編成となっています。

学級経営の「核」となる

学級活動は、特別活動の内容（小学校は4内容、中学校は3内容）の先頭に位置付けられたもので、特別活動の内容の中では、唯一、週1コマ・年間35時間（小学校第1学年は34時間）の授業が保障され、さらには、年度や学期の初めや学年・学期末などの特定の期間に特設の授業を行うことができますようになっていきます（いわゆる「特設の学級活動」）。

小・中学校の児童生徒にとって、最も基本の所属集団である学級は、学校生活の基盤をなす場所であり、自分たちの居場所に他なりません。そこで、上記のような学級活動の時間についての教育課程上の配慮によって、担任教師が行う学級経営を充実させるた

めの条件が整備されていることとなります。



2 特別活動の目標、学級活動の目標

(1) 特別活動の目標

学級活動は、特別活動の内容の1つです。当然、特別活動の目標に沿って進められるべきものですので、特別活動全体の目標を確認しておきましょう。

特別活動の目標

(小・中学校学習指導要領 第5・6章 特別活動 第1)

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と伸長を図り、集団(や社会)の一員としてよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

※()内は中学校

冒頭の「望ましい集団活動」は、特別活動を進めていく上で最も注意すべき方法原理を示しています。その条件として、学習指導要領は次のように記しています。

「望ましい集団活動」の条件

- ア 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること。
- イ 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、話し合い、それを協力して実践できること。
- ウ 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解し、自分の役割や責任を果たすとともに、活動の目標について振り返り、生かすことができること。
- エ 一人一人の自発的な思いや願いが尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと。
- オ 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること。
- カ 集団の中で、互いのよさを認め合うことができ、自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。

- 集団の各成員が互いに人格を尊重し合い、個人を集団に埋没させることなく、それぞれの個性を認め合い、伸ばしていく活動。
- 民主的な手続きを通して、集団の目指すべき目標や集団規範を設定し、互いに協力し合って望ましい人間関係を築き、充実した学校生活を実現していく活動。

- × 少数が支配する集団活動。 ※集団内の結束が固く、一見協力的な活動が行われて
- × 単なるなれ合いの集団活動。 いるようであっても、望ましい集団活動ではない。

※小・中学校の学習指導要領の記述を一緒にしてまとめたものです。

これらの条件をクリアする集団活動を設定し、集団と個の両方を伸ばしていくことが特別活動の指導の大原則です。特別活動の内容の一つである学級活動も、当然、この原則に従って実施していくこととなります。「望ましい集団活動」の条件に適合しているかを確認して、適切な学級活動を行っていきましょう。

(2) 学級活動の目標

学級活動自体の目標はどのようになっているのでしょうか。確認してみましょう。

学級活動の目標

(小・中学校学習指導要領 第5・6章 特別活動 第2 学級活動)

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

学級活動の目標から、学級活動で育てたいものは、以下の3つに整理することができます。※小・中学校の学習指導要領解説特別活動編の記述を合わせて要約したものです。

「望ましい人間関係」

楽しく豊かで充実した学級生活づくりのために、互いに尊重しよさを認め合えるような人間関係。

「自主的、実践的な態度」

目標をもち、学級の一員としてよりよい生活を築くために役割や責任を果たし、生活や学習、進路に関する諸問題について、自己をよりよく生かすとともに、みんなで話し合い、協力して解決したり、自己の生き方について考えを深めたりする自主的、実践的な態度。

「健全な生活態度」

日常生活や社会生活を営むために必要な行動の仕方を身に付け、集団や社会の一員として自己を正しく生かそうとする態度、現在及び将来の生き方を考え行動していく態度、心身の健康を増進することができる態度。

目標が示すとおり、学級活動は、学習指導、生徒指導、適応指導、進路指導…、また、道徳教育、キャリア教育、健康教育…等々、学校教育で行うすべての「〇〇指導」「〇〇教育」を、直接、学級の児童生徒に施す教育活動だと言えます。



3 学級活動の内容

学級活動の内容は、小・中学校ごと、次のとおり学習指導要領に示されています。

(1) 学級活動の内容(小学校)

小学校の学級活動の内容は、学年別のものと全学年共通して扱うものとに分かれて示されています。

学年別の内容

【第1学年及び第2学年】

学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

【第3学年及び第4学年】

学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくるとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

【第5学年及び第6学年】

学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。

全学年共通の内容

【共通事項】

(1) 学級や学校の生活づくり

※いわゆる「学級会」(話し合い活動)を指します。

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

※いわゆる「適応指導」を指します。

- ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- イ 基本的な生活習慣の形成
- ウ 望ましい人間関係の形成
- エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解

- オ 学校図書館の利用
- カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

小学校の学級活動で、全学年で取り扱う内容〔共通事項〕は、(1)、(2)の2つの活動内容に分かれています。

(1) 学級や学校の生活づくり（学級会、係活動、集会活動など）

児童が中心になって活動するものです。学級全体で取り組むことについて、学級全体で話し合い（**集団討議**）、学級全体で決定（**集団決定**）し、実践します。

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全（目標をもって生きる態度の形成など）

教師が中心になって指導するものです。児童が抱える共通の問題について、学級全体で話し合い（**集団思考**）、各自が取組内容を決定（**自己決定**）し、実践します。

(2) 学級活動の内容（中学校）

(1) 学級や学校の生活づくり ————— ※いわゆる「学級会」（話し合い活動）を指します。

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 適応と成長及び健康安全 ————— ※いわゆる「適応指導」を指します。

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への適応
- ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

中学校の学級活動の内容になると、発達段階によって、活動内容(2)の内容項目が増え、さらに、新たに活動内容(3)が加わります。(2)と(3)の特質は基本的に同じです。

(3) 学業と進路 ————— ※いわゆる「学業指導」「進路指導」を指します。

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計



中学校の学級活動は、(1)、(2)、(3)の3つの活動内容に整理され、それぞれの活動内容について、全学年で取り扱うことになっています。

(1) 学級や学校の生活づくり（学級会、係活動、集会活動など）

生徒が中心になって活動するものです。学級全体で取り組むことについて、学級全体で話し合い（**集団討議**）、学級全体で決定（**集団決定**）し、実践します。

(2) 適応と成長及び健康安全（不安や悩みとその解決、望ましい人間関係の確立など）

(3) 学業と進路（学ぶことと働くことの意義の理解、自主的な学習態度の形成など）

教師が中心になって指導するものです。生徒が抱える共通の問題について、学級全体で話し合い（**集団思考**）、各自が取組内容を決定（**自己決定**）し、実践します。

ポイント▶学習指導要領で示されている学級活動の内容（小学校では(1)と(2)、中学校では(1)と(2)・(3)）の特質の違いを押さえて指導に当たしましょう。

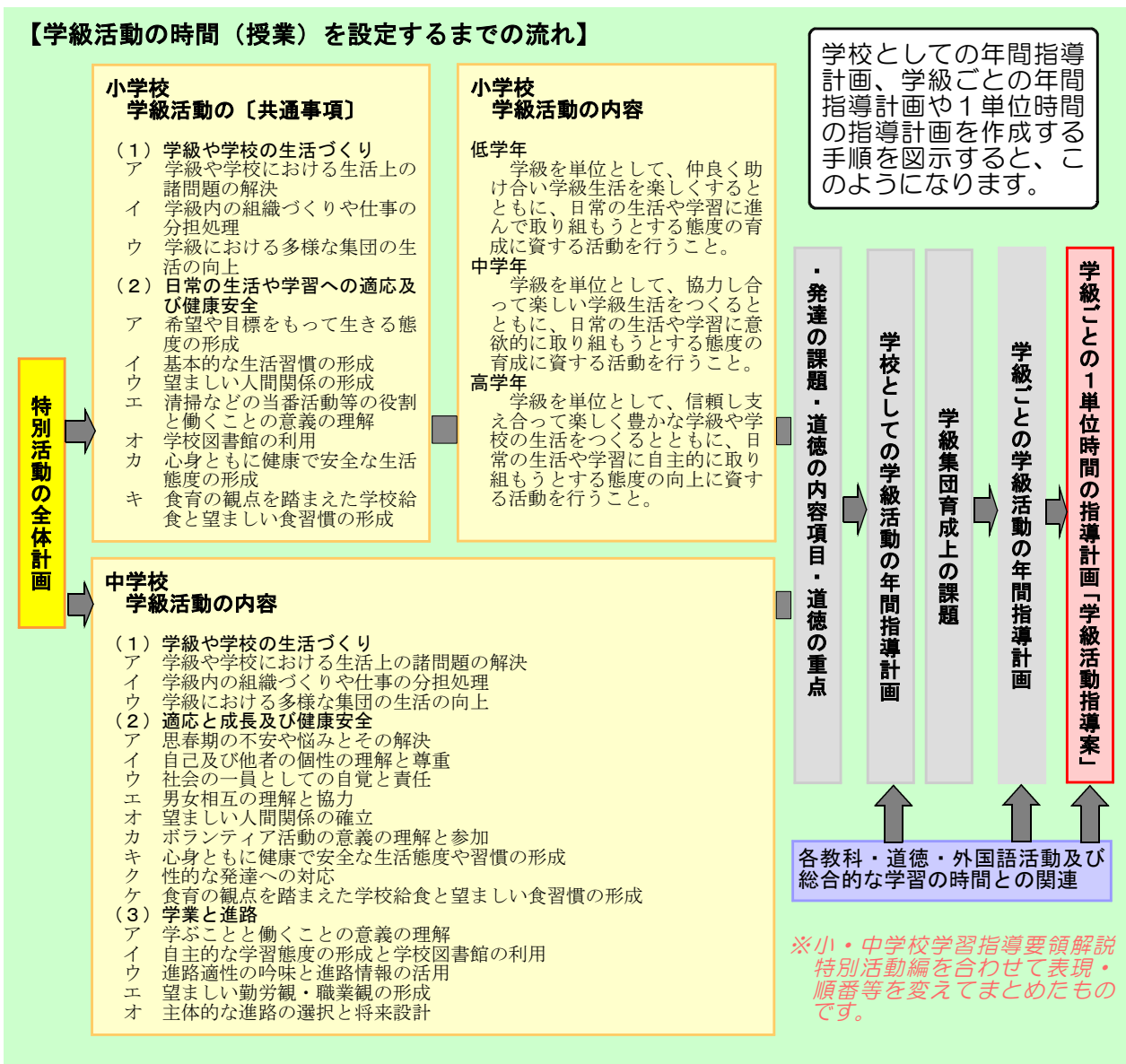
4 学級活動の授業づくり

ここからは、いよいよ学級活動の授業づくりについて、学習指導要領を拠り所に触れていきます。

(1) 学級活動の授業を行う前に確認しておくこと

まず、学級活動の授業を設定する前に確認しておくべきことを整理してみましょう。学習指導要領では、1つの学級活動の授業（1単位時間の指導計画＝指導案）を設定するまでの流れを下図のように示しています。特別活動の全体計画を筆頭に、年度当初に学校で作成した学級活動に関連する各種の指導計画、参考資料等の内容を確認して、1つ1つの学級活動の授業をつくっていきます。それぞれの計画や資料について記しますので、参考としてください。

【学級活動の時間（授業）を設定するまでの流れ】



① 特別活動全体計画

特別活動の全体計画を参照し、次の内容を確認します。

- 特別活動の重点目標
- 学校教育目標や指導の重点との関連
- 各教科、道徳（道徳の内容項目や道徳の重点）、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連



- 学級活動の目標と指導の方針
- 学級活動の各内容に充てる授業時数
- 評価の観点



以下に示す各種の指導計画例は、小学校の様式例を参考として挙げています（埼玉県小学校教育課程編成要領）。中学校の様式例は、同様に「埼玉県中学校教育課程編成要領」を参照してください。

▶特別活動の全体計画

特別活動の目標を調和的かつ効果的に達成するために各学校が作成する、特別活動の全体の指導計画。

特別活動全体計画（例）

学校教育目標

なかよく
かしく
げんまよく

学校の実態
児童の実態
保護者の願い
地域や社会の願い
教師の教育理念

計画を
体見級
活見級
連関部
動分
すを
にま
る確
す部
の部
分
な
ど。

生徒指導

各教科及び外国語活動

道徳

道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。

総合的な学習の時間

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見出し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようになる。

特別活動

目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方を考えることができるようになる。

今年度の重点目標

・集団の全児童をもってよりよい生活を築こうとする自主的な話し合いを育てる。
・生活の基本行動様式を身に付け、社会的な態度を図る。
・相手の立場を理解し、認め合うことを基本として望ましい人間関係を育てる。

各学年の目標

低学年の目標
友達と仲良くし、進んで活動できる態度を育てる。
中学年の目標
友達と協力し合い、自ら活動できる態度を育てる。
高学年の目標
自主的な活動を充実し、集団の中で自己を生かす能力を育てる。

日常生活の中での教育活動

・朝の会、帰りの会（生活上の指導など話し合い）
・当番活動（目直、清掃、給食、その他）
・教育相談
・「〇〇小の活動」（異年齢集団活動）など

県や市の施策、地域との連携、PTA・各地方自治体の行事、幼保中心との連携

・教育に関する3つの達成目標
・学校応援団
・埼玉の子ども70万人体験活動
・公民館の諸活動
・市民体育祭・駅伝大会・カルタ大会
・体験入学

学年・学級経営

（目標・内容・指導の方針）

学級活動

目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

内容

〔第1学年及び第2学年〕
学級を単位として、仲良く助け合い学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。
〔第3学年及び第4学年〕
学級を単位として、協力し合っ楽しく学級生活をつくとともに、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。
〔第5学年及び第6学年〕
学級を単位として、信頼し支え合っ楽しく豊かな学級や学校の生活をつくとともに、日常生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。

【指導の方針】

自らよりよい生活を築くために合意形成をする話し合い活動や自分たちでルールを作って守る活動、責任感や自尊感情を高める活動を重視する。

児童会活動

目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

内容

学級活動の全児童をもって組織する児童会において学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。
(1)児童会の計画と指導
(2)異年齢による交流
(3)学校行事への協力

【指導の方針】

よりよい学校生活を主体的に築くための話し合い活動や集団への寄与など自治的能力の育成を重視する。

クラブ活動

目標

クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

内容

学年や学級の組織を離れ第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて異年齢集団の交流を深め共通の興味関心を追求する活動を行うこと。
(1)クラブの計画と運営
(2)クラブを楽しむ活動
(3)クラブの成果の発表

【指導の方針】

個性を伸ばし、望ましい学校生活や人間関係を築く力の育成を重視する。

学校行事

目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

内容

学校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する活動を行うこと。
(1)儀式的行事
(2)文化的行事
(3)健康安全・体育的行事
(4)進路・集団宿泊的行事
(5)勤労生産・奉仕的行事

【指導の方針】

学校への所属感や連帯意識を深め、協同の意義、自然や文化の大切さを実感できる体験活動を重視する。

（組織・時間等）

(1)学級や学校の生活づくり

共通事項

学級や学校における生活上の諸問題の解決
学級内の組織づくりや仕事の分担処理
学級における多様な集団生活の向上

(2)日常生活や学習への適応及び健康安全

ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
イ 望ましい人間関係の形成
エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
オ 学校図書館の利用
カ 自らも健康で安全な生活態度の形成
キ 健康的な食生活と望ましい食習慣の形成

代表委員会

・4年生以上の各学級の代表男女各1名、各委員会の代表によって組織する。必要によりは、クラブ活動の代表者等（通学班班長、縦割り班班長）が参加する。
・毎月、第3月曜日の第6校時に実施（定例）、臨時的にも行う。
・運営委員会を中心に企画立案する。

委員会活動

次の委員会を設置する
（運動委員会、放送委員会、保健委員会、図書委員会、飼育委員会、給食委員会、栽培委員会、集委員会）
・5年生以上の全児童で分担する（所属は通年制）。
・毎月第1木曜日の第6校時に定例活動とし、その他、常時活動を行う。
・各委員会では、委員長、副委員長、記録を互選する。

児童会集合同会（全学年6時間）

・年3回校児集合同会（1年生を迎える会、〇〇小祭り、6年生を送る会）
・朝の時間を活用した細時間の集合同会も実施する。

クラブ（10設置）

球技クラブ、調理クラブ、手芸クラブ、工作クラブ、運動クラブ、手話・ボランティアクラブ、科学クラブ、囲碁将棋クラブ、昔の遊びクラブ、音楽クラブ
・第4学年以上の全児童をもって組織する。
・毎週木曜日（第1週を除く）の第6校時を活動時間に充てる。
・全教師で分担し、指導する。
・年度初めに組織・活動計画について話し合い、決定する。
・共通の興味関心を児童相互の創意工夫を生かしながら活動（追求）する。
・学年末にクラブ見学会（3年生）とクラブ発表会を行い、活動の成果発表の場とするとも、来年度の所属の移転とす。

実施時数 第4～6学年 〇〇時間（時間割への位置付け）

(1)儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開の動機付けとなるような活動を行うこと。
（入学式、始業式、離任式、終業式、卒業式、修了式）

〔1〕新入式 〔2〕始業式 〔3〕離任式 〔4〕終業式 〔5〕卒業式 〔6〕修了式

(2)文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。
（学習発表会、文化発表会、校児発表会）

〔1〕新入式 〔2〕始業式 〔3〕離任式 〔4〕終業式 〔5〕卒業式 〔6〕修了式

(3)健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しみ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上に資するような活動を行うこと。

〔1〕運動会 〔2〕健康診断 〔3〕避難訓練 〔4〕交通安全教育 〔5〕防犯教育

〔1〕新入式 〔2〕始業式 〔3〕離任式 〔4〕終業式 〔5〕卒業式 〔6〕修了式

(4)遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。
（全校遠足、自然観察、修学旅行）

〔1〕新入式 〔2〕始業式 〔3〕離任式 〔4〕終業式 〔5〕卒業式 〔6〕修了式

(5)勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊厳や生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。
（通学路清掃、老人ホーム訪問交流会、取組祭）

〔1〕新入式 〔2〕始業式 〔3〕離任式 〔4〕終業式 〔5〕卒業式 〔6〕修了式

各学年の 第1学年 〇〇時間 第2学年 〇〇時間 第3学年 〇〇時間
合計時数 第4学年 〇〇時間 第5学年 〇〇時間 第6学年 〇〇時間

評価の対象

・指導計画、指導方法
・及の展開過程
・集団の姿容
・個人の姿容

評価計画の内容

〇いつ、どこで（時間、段階）
〇誰が（主体）
〇何を（対象、内容）
〇どのようにして（方法）
〇何のために（結果の活用目的）
評価方法 ・児童による自己評価 ・児童による相互評価
・教師による観察法等

② 学級活動の内容

小・中学校の学習指導要領が示す学級活動の内容を確認します。これについては既に述べましたが、扱う活動内容が (1)～(3)のどれであるのか、その特質を確認した上で、さらに活動内容項目それぞれの考え方や留意事項について、学習指導要領解説特別活動編（第3章第1節）を読んで確認します。

扱う活動内容の留意事項を確認します。

③ 学校としての学級活動の年間指導計画

④ 学級ごとの学級活動の年間指導計画

年度当初に学校が作成した学校としての年間指導計画、学級担任として自身が作成した学級ごとの年間指導計画を参照し、扱う活動内容（議題や題材を含む）が、学校全体としてどのような実施計画・位置付けになっているのかを確認します。



小・中学校学習指導要領解説 特別活動編

▶学校としての学級活動の年間指導計画

各学年の発達段階を踏まえ、系統立てた指導を年間通して計画的に行っていくために、小学校6か年、中学校3か年を見通して、各学校が作成する学年ごとの学級活動の指導計画。

学校の年間指導計画での扱いを確認します。

学級活動年間指導計画(例) - 第3学年 -		学校の年間指導計画での扱いを確認します。		主な児童会活動、クラブ活動、学校行事の予定	
指導のねらい	指導上の留意点	月別	指導上の留意点		
(1) 学級や学校の生活づくり 学級の充実と向上を目指して学級全員で話し合い、決定し、実践していく活動を通して、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 日常生活や学習への適応及び健康安全など学級全員に共通する問題について話し合い、自己決定し、個々で実践する活動を通して、健全な生活態度を育てる。 【道徳教育とのかかわり】 集団や社会のままりを守り、協力し合って楽しい学級生活をつくる。(道徳の内容項目2(3)、4(4)) ○学級活動の計画委員会を組織し、輪番制で役割を担う。そして、次のような手順で学級活動の準備を行う。 ①問題の収集と整理 提案ポスト、学級日誌、朝の会や帰りの会の話し合いの中から、解決したい問題を集め、整理して学級全員に提案できるようにする。 ②議題の決定 選定の視点(1学級生活に直接結びつく問題、2児童全員の共同の問題、3自治的な活動として児童に任せられる問題、4児童の力で解決可能な問題)をもとに学級全員で決定する。 ③計画・準備 (1)の活動において、教師の適切な指導の下、計画委員会が役割を話し合う事柄などを中心に活動計画を立てて自主的に進められるようにする。 (2)の活動において、教師の指導が中心になるが、役割や準備の一部を計画委員会が分担するなど、児童の活動を入れるように工夫する。 (中学年)学級を単位として、協力し合って楽しい学級生活をつくることにも、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度の育成に資する活動を行う。	(1) 学級や学校の生活づくり (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全	1月	○3年生になって ○進んで働くこと ○安全な登下校	・人学式・始業式(儀) ・1年生歓迎会(児) ・3年よろしく集会(児) ・遠足(遠) ・地域清掃(勤) ・栽培活動(勤) ・避難訓練(健) ・交通安全教室・終業式(儀)	
		2月	○3年生になって ○進んで働くこと ○安全な登下校	・自主的・主体的に話し合えるようになる。 ・計画作成時に話し合う内容や順序その他の準備について計画委員会話し合うことができるようになる。 ・進んで自分の考えが発表できるようになる。 ・提案理由を拠り所として集団決定ができるようになる。 ・実施に応じて、教師は積極的に助言をし、話し合いが活発に行われるようになる。	・1学期の反省をもとに2学期のめあてを決め、意欲的に取り組む態度を育てる。 ・1学期の反省をもとに2学期のめあてを決め、意欲的に取り組む態度を育てる。 ・いつも気持ちのよい言葉遣いをする態度を育てる。
		3月	○3年生になって ○進んで働くこと ○安全な登下校	・自主的・主体的に話し合えるようになる。 ・計画作成時に話し合う内容や順序その他の準備について計画委員会話し合うことができるようになる。 ・進んで自分の考えが発表できるようになる。 ・提案理由を拠り所として集団決定ができるようになる。 ・実施に応じて、教師は積極的に助言をし、話し合いが活発に行われるようになる。	・2学期の反省をもとに3学期のめあてを決め、意欲的に取り組む態度を育てる。 ・2学期の反省をもとに3学期のめあてを決め、意欲的に取り組む態度を育てる。 ・男女の特性を知り、協力して生活しようとする態度を育てる。 ・4年生に向けてめあてや希望をもって生活しようとする態度を育てる。

学校としての学級活動の年間指導計画は、その年度の学校・学年の実態を考慮して、特別活動主任が中心となって作成するものです。各学年の学級活動を進める上での拠り所となるもので、基本的に各学級の担任教師は、この計画を参照し、学校や学年で配列や内容を確認し、共通理解をした上で学級活動の授業を実践していきます。様式は、学年ごとに一年間で扱う活動内容(議題や題材を含む)を時系列にまとめた形になっています(学習

指導要領が示す全ての活動内容項目を扱うように作成されています)。ここでは、次の内容を確認します。

- 指導内容(学校・学年として育てたい力)と時期
- 取り上げる議題例や題材(活動内容の特質)
- 授業時数(時間配当)

学級の年間指導計画との一貫性を確認します。



平成〇〇年度 第3学年〇組 学級活動 年間指導計画	
学級目標 友だちのことを考える子、人の目を見て話を聞く子、みんなと元気に遊ぶ子	
集団児童会活動の実践 ・学級会を楽しみにし、自分の意見を進んで言える。 ・係活動においては当番活動との違いを理解している。 ・低学年では教師主導であるが、学級生活が楽しくなる集会を行ってきた。	目指す児童像 協力し合って、楽しい学級生活をつくることにも、日常生活や学習に意欲的に取り組もうとする児童
手だて 計画委員会を輪番制とし、誰もが司会経験することで、協力し合える学級をつくれるようになる。係活動や集会活動に創意工夫できる場を設定し、学習や生活に意欲的に取り組めるようにする。	教師の願い ・児童自ら活動計画を作成し、進行等の役割を輪番で受け持ち、全員が役割を果たすようになってほしい。 ・児童が創意工夫できる係活動を組織し、協力して活動できるようにしてほしい。
(1) 学級や学校の生活づくり (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全	
第1学期の指導目標:「学級のみんなと仲良くなる(人間関係・協力)」 【話し合い】年度当初に話し合いの手順や役割について指導し、司会を中心に進められるようにする。 【係活動】係と当番の違いを明確にし、教師の助言のもとに学級内での必要な仕事を見つけ、係を設置する。 【集会活動】今までの経験を生かしながら、進行や準備を自分たちの手で行えるようにする。 ○学級のめあてを決めよう ○「どうぞよろしく」友だちづくり集会をしよう ○3年〇組がもっと仲良くなる「学級の旗」の使い方決めよう	
第2学期の指導目標:「協力し合って楽しい学級生活をつくらう(役割・所属意識)」 【話し合い】司会等に慣れていない場合には、助言し誰もが行えるようにする。 【係活動】簡単な活動計画を作成させ、計画的に係の活動ができるようにする。 【集会活動】全員で役割を分担し、誰もが楽しく活動できる活動計画づくりを行う。 ○夏休み発表会をしよう ○係のめあてを決めよう ○「友だちと仲良くなる」あいさつ	
第3学期の指導目標:「学級の思い出をつくらう(承認と自信)」 【話し合い】安易に多数決で決めないようにして学級の総意となるように話し合いを進める。 【係活動】要望が出し合える機会を設けたり、係ポストをつくるなどで活動の幅を広げ、活動の様子をみんなが分かるようにする。 【集会活動】レクリエーション的な内容のものばかりでなく学級生活の充実や向上に向けた内容を工夫する。 ○クラスの思い出に残るお別れ会をしよう ○係活動の発表会をしよう	

▶学級ごとの学級活動の年間指導計画

学校として作成した各学年ごとの学級活動の年間指導計画に基づき、学級担任の教師が学年・学級や児童生徒個々の実態及び課題などを考慮して作成する指導計画。

年度当初に立てた自身の計画を見直し、「現在の学級」に即しているかどうかを吟味し、児童生徒の提案や共通の問題を加味して、授業を設定します。

ここでは、次のことを確認します。

- 指導目標・育てたい力
- 指導内容(予想される議題、題材、焦点化の必要性)と時期
- 指導方法と評価方法

※実態に応じて修正・変更を施します。

(2) 学級活動の1 単位時間の指導計画（学級活動指導案）の作成

① 活動内容の特質に応じた活動過程（問題発見から実践化までの流れ）

学級活動の授業（事前の活動～本時の活動～事後の活動）の一連の活動過程について、学習指導要領は次のように示しています（第3章第1節）。



段階	(1)学級や学校の生活づくり	(2)日常生活や学習への適応 (※) 適応と成長及び健康安全 (※) (3)学業と進路 (※)
事前の活動	<p>1 課題の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級や学校をよりよくするために、提案ポスト、朝の会や帰りの会の話題、学級日誌等から問題を収集し、議題化していく。 <p>2 共同の問題（活動）の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画委員（学級活動委員）が中心となり、以下の視点で問題を整理していく。 <ol style="list-style-type: none"> ①集会の企画に関すること ②係活動や当番活動に関すること ③友だちに関すること ④学習に関すること ⑤教室環境に関すること など <p>3 議題の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画委員（学級活動委員）が中心となり、学級全員で以下の観点から「議題」を選定する。 <ol style="list-style-type: none"> ①学級・学校の生活をよりよくすること ②学級のみみんなに関係すること ③みんなで話し合っ、みんなで決めた方がいいこと ④話し合っ、決めたことが、実行できること ⑤今すぐ話し合っ、決めた方がいいこと <p>4 活動計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の指導を受けながら、計画委員会（学級活動委員会）で「学級会」（話し合い活動）の活動計画を作成する。 <ol style="list-style-type: none"> ①提案理由の練り上げ ②役割分担（司会、黒板記録、ノート記録等） ③めあて、約束の確認 ④話し合いの柱の設定 <p>5 問題の意識化</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題に対する関心を高め、話し合いへ積極的に参加できるように自分の考えをまとめる。 	<p>1 課題の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に示されている問題に取り組むことを原則とするが、場合によっては直面する問題を取り上げる。 <p>2 共通の問題（活動）の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に関する児童生徒の実態を把握し、共通する問題を整理して児童生徒に伝え、問題意識を共有化させる。 <p>3 題材の決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として「題材」を決定する。 <p>4 指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前・本時・事後の指導計画を作成し、事前調査をしたり、資料を作成したりする。 資料作りや作成した資料の説明、話し合いの場面でできるだけ計画委員（学級活動委員）や児童生徒の活動を取り入れる。 <p>5 問題の意識化</p> <ul style="list-style-type: none"> 題材への関心を高め、話し合いに積極的に参加できるように自分の現状を考えたり、学級の現状を調べたりして、問題意識をもつ。
本時の活動	<p>6 学級会（話し合い活動）</p> <p>集団討論による集団目標の集団決定</p> <p>○協力してよりよい学級や学校の生活をつくるために集団として実践するための目標や方法、内容などを決める。 （提案理由の理解→意見の交換→多様な意見を生かしたよりよい集団決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の指導を受けながら、活動計画に沿って、役割ごとに能率よく進行する。 少数意見も大切にしながら折合いを付ける話し合いができるよう助言する。 	<p>6 学級活動（話し合い）</p> <p>集団思考を生かした個人目標の個人決定</p> <p>○自分の問題の状況を理解し、個人として解決するための目標や方法、内容などを決める。 （問題の状況や原因の把握→解決や対処の仕方の集団思考→自分としての解決方法などの自己決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に教師が中心となり、児童生徒の活動を取り入れ、以下の順序で指導する。 <ol style="list-style-type: none"> ①問題の共通化 ②問題が起こる原因の追究 ③解決策の検討 ④実践への自己決定
事後の活動	<p>7 集団としての実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全員で役割を分担し、集団決定したことを実践する。 計画委員会（学級活動委員会）と教師は、実践の見通しがもてるように、計画表や準備の手順等を作成する。 <p>8 活動の振り返り（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全員で事前・本時・事後の活動を振り返り、よかったこと、次の活動への課題等を整理する。 	<p>7 個人としての実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己決定をためてに向かって、一人一人が努力するように働き掛ける。 内容によっては家庭に協力を求め、児童生徒の実践意欲 <p>8 活動の振り返り（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> カードなどを使って一定期間実践し、教師による評価や児童生徒による相互評価を行う。また、内容によっては家庭（保護者）の評価も取り入れる。 朝の会や帰りの会で事後の実践について、適宜、振り返りを取り入れる。

1 単位時間の指導計画については、学級活動の活動内容の(1)と(2)・(3)（(3)は中学校のみ）のそれぞれの特質を踏まえて作成する必要があります。

② 学級活動指導案、板書

小・中学校それぞれの指導案と板書の例を見てみましょう。

名称は、「学級活動指導案」となります。

小学校 ※活動内容の特質の違いによって、以下ようになります。

(1) 学級や学校の生活づくり

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全

第4学年〇組 学級活動指導案
平成〇年 〇月〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 議題「4年〇組の係を決めよう」(第〇学年 (1)イ 学級内の総務づくりや仕事の分担処理)

2 児童の実態と議題選定の理由
学級を行い、4年生として新しい学級での生活がスタートした。4年生になるという期待をもって進級した児童の目はみんな輝いている。しかし、休み時間の様子を見ると、新しい学級での生活に緊張しているせいか、前学級の友だちや少人数で集まって遊んでいたりと、一人で本を読んでいたりする子もいる。声を掛け合ってみんなで楽しく過ごそうとする姿はまだ見られない。早く新しい学級に慣れ、学級目標の実現に向けてみんなで協力していこうという学級意識を高めていきたいと考える。

本議題は、学級目標を決めたり、約束事を確認したり、学級の組織をつくる中で、児童の所属感や協力する態度を育てていきたい。園か中で、児童自らが学級目標を実現させたという達成感を味わわせていきたい。

3 評価規準

学級活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級の生活をよりよく、楽しくしていくという意識をもち、他の児童と協力して意欲的に係活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、係活動の内容や自分の役割、仕事の進め方について考え、判断し、協力して実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや学級集団の中で係活動の役割、係活動と当番活動の違い、係活動の進め方について理解している。

4 事前の活動

月日(曜日)	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の変
4/14(木)	昼休み	計画委員	・議題案を検討・決定する。	・計画委員は編審制とし、多くの役割を 経験できるようにする。	
<p>提案された議題 「係決めよう」 提案した理由 3年生のクラスでも係があつて楽しかったため、4年生のクラスでも係を決めたい。係活動を通してみんなが協力して楽しく活動して仲良くなれるようなクラスにしていきたい。</p>					
	帰りの会	全員	・議題を決定する。 ・3年生時に学級にどのような係があつたのかを確認する。	・計画委員の提案をもとに、全員で決定するよう助言する。 ・係活動と当番活動の違いが明確になるように指導する。 ①係活動と当番活動の違いを理解している。	(知識・理解)【観察】
4/15(金)	昼休み	計画委員 提案者	・活動計画を作成する。 ・提案理由を確認し、練り上げる。 ・話し合うこと、めあて、役割分担を決める。	・協力して楽しく活動し、もっと仲良くなれるという視点を踏まえ、児童に分かりやすい提案理由を作成するよう助言する。 ・提案理由に沿っためあてが考えられるように助言する。 ②提案理由を踏まえためあてや仕立てを考えている。	(思考・判断・実践)【発言】
<p>議題 「4年〇組の係を決めよう」 話し合うこと① どんな係があるよいか考えよう 話し合うこと② 係の役割を決めよう</p>					
	帰りの会	全員	・計画委員会が、話し合うことを全員に知らせ、他の児童は学級会ノートに必要なことを記入する。	・決まっていること(条件)共通理解できるように、実態に応じて補足する。 ・提案理由に沿った意見が考えられるように助言する。 ③学級生活をより豊かにする係活動の案を出そうとしている。(関心・意欲・態度)【発言】	
4/18(月)	昼休み	計画委員	・全員の学級会ノートに目を通す。 ・話し合いの準備を行う。	・資料確認等を通して、話し合いの見通しもできるようにする。	
4/19(火)	朝の会	全員	・教師の言葉が書かれた学級会ノートを受け取る。	・事前に学級会ノートに前ましの言葉を記入し、活動意欲を高める。	

5 本時のねらい
○学級をより楽しく豊かにするために、学級に必要な係を考え、自分の思いや考えを実現する係に所属することができる。

6 展開(活動計画)

第1回	学級活動	活動計画	平成〇〇年4月19日(火) 第〇校時
議題	4年〇組の係を決めよう		
役割分担	司会() () 黒板記録() () ノート記録()		
提案理由	3年生のクラスでは、係がありました。4年1組にも係が必要だと思います。係があればみんながもっと楽しく、仲良くなれると思うからです。みんなで考えを出し合って4年〇組がもっと楽しく、全員が仲良くなれる係を考えたいと思います。		
めあて	4年〇組がもっと楽しく、みんなが仲良くなれるような係を考えよう		
決まっていること	・クラスのみんなが楽しくなる、クラスのみんなのためにになるような係を考える。 ・友だちと協力して仕事ができる係を決める。(係の人数は3人以上)		
話し合いの順序	気を付けること		資料・時間
1 はじめの言葉	・大きな声ではっきりと言う。		8分 掲示資料
2 計画委員の紹介	・自分のめあてを言って自己紹介をする。		
3 議題の確認	・大きな声で言う。		
4 提案理由の説明	・分かるように、ゆっくり大きな声で言う。		
5 めあての確認	・みんなで大きな声で読んで確認する。		

第6学年〇組 学級活動指導案
平成〇年 4月〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材「最高学年としての役割」(第〇学年 (2)エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解)

2 児童の実態と題材設定の理由
本学級の児童は、学級での当番活動だけでなく、学校全体に関わる委員会活動、クラブ活動や縦割り班活動などの異年齢集団活動において中心的な役割を担い、最高学年として下級生の手本となるように一生懸命頑張っている。様々な場面の仕事に対して、自分なりに真剣に取り組む姿が見られる。しかし、自ら仕事を見つけて取り組むことや問題点を発見して解決しようとするなど、学校生活をよりよくしようと工夫する意識はまだ高いとは言えない。

本題材は、活動内容(2)「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意味の理解」に関わり、最高学年として学校で果たすべき役割を自覚するとともに、キャリア教育の一環として働く喜びを感じ、進んで実践する児童を育成することをねらいとする。また、通学班はもとより地域でのスポーツ少年団、子ども会などに所属している児童もいるので、地域の中でも率先して働こうとする意欲も喚起していきたいと考える。

児童がこの題材を学級の共通の問題として捉えることができるように、事前に児童の実態や意識を調査するアンケートや下級生へのインタビューを実施する。その結果から最高学年として期待されていることを知るとともに、活動に工夫が足りないという現状に気付き、一人一人の課題意識を高めていきたい。また、本時の活動では、解決策を深めていく手段として話し合いの場面を積極的に行き入れ、友達と意見交換をしていく中で、よりよい解決策を見いだしていけるようにしたい。そして実践した後、成果について振り返り、互いを認め合う評価を展開していきたい。

3 指導のねらい
○当番活動や委員会活動などの取組を見直し、最高学年としての役割や働くことの意味が理解できるようにする。
○問題を解決し、工夫・改善していくための方法について考え、自分のめあてを自己決定し、強い意志をもって意欲的に実践していこうとする態度を育てる。

4 評価規準

学級活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
自己の生活の実業と向上にかかわる問題に関心をもち、仕事を工夫したり、改善したりする方法を自主的に自分の生活に取り入れようとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、今までの取組や意識を見直し、課題について話し合い、自分の役割を果たすための目標や方法を考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活の仕方や課題解決に合った方法などについて理解している。

5 事前指導

月日(曜日)	活動の場(主体)	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の変	
9/20(火)	朝の会(全員)	・アンケート調査を実施し、児童の意識や実態を把握する。	・題材について児童に知らせ、意識や実態を調査するアンケートやインタビューを行う。		
最高学年としての役割 アンケート調査結果 実施人数24名					
アンケート項目					
		よくできている	できている	ややできていない	できていない
自分の仕事に責任をもって取り組んでいるか。		8	13	2	1
みんなのため、学校のために取り組んでいるか。		7	12	3	1
下級生の面倒をよく見ているか。		15	4	4	1
協力したり助け合ったりして取り組んでいるか。		13	7	3	1
相談しながら計画的に取り組んでいるか。		6	13	4	1
仕事をよりよくしようと、工夫して取り組んでいるか。		6	9	8	1
9/20(火)	休み時間等(全員)	・下級生へのインタビューを実施し、客観的に見た自分たちの姿や期待されていることなどを把握する。	・アンケートやインタビュー項目に合わせた意図的に設定する。		
9/26(月)		<p>○「さすが6年生」と思うところはどこですか。 ○6年生のことをどのように思っていますか。 ○6年生に期待していることはありますか。</p>			
9/27(火)	休み時間(計画委員と教師)	・アンケートやインタビューの結果を計画委員と一緒にまとめる。 ・様々な場面での児童が働く様子を提示した資料を用意する。(写真入り提示資料) ◆代表委員のあいさつ動画 ◆金魚バンドクラブの演奏 ◆1年生への効果的紹介 ◆語音ボランティア活動 ◆クラスをよくする係活動 など	②アンケートの結果やインタビューから、よい点や問題点を見つけ、本時の活動意欲を高めている。 (関心・意欲・態度)【観察・発言・資料】	・アンケートやインタビューの中に出てきた児童の様子を参考に資料を用意する。また、これらを取り組んでほしい活動など、児童の意欲を高める上で効果的な活動の様子も提示する。	

6 本時のねらい
○当番活動や委員会活動など、今までの取組を振り返り、自分の課題を見つける。
○最高学年としての役割を考え、学校や地域で何ができるかを話し合い、具体的な行動目標を設定する。

7 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	目指す児童の変	教材・資料
導入	1 インタビューやアンケート集計結果を見て、気が付いたことを発表する。 ・6年生は、下級生から期待されている。	・指導上の留意点 ・学級の共通の問題として捉えられるように、統計資料を活用し、話し合う。(アンケート結果から考えたことをたくさん出し合うことで課題意識を	①目指す児童の変	教材・資料

6 決まっていること の確認	・係の内容、仕事分担を再確認する。	
7 先生の話		
8 話し合うこと ① どんな係があるか か考えよう	・決まっていることを考えて話し合ってもらおう。 ・できるだけ多くの考えを出してもらおう。 ・できるだけ多くの人の意見を聞く。 ・理由をはっきり言ってもらおう。 ・時間を守るようにする。	3 2分 賛成反対 マグネット (25分)
② 係の分担を決めよう	・提案理由を聞いて話し合うようにする。 ・取り組むことが可能な係を決定する。	決定 マグネット (7分)
9 決まったことの発表	・係のメンバーは3名以上とする。	5分
10 学級会ノートへの記録	・ノート記録がはつきりと発表する。 ・仲間のいい所を見つけられるようにする。	学級会ノート
11 感想発表	・3～4人さす。	
12 先生の話	・しっかり聞く。	
13 おわりの言葉	・大きな声でしっかり言う。	

7 指導上の留意点

話し合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿
1 はじめの言葉	・明るい雰囲気話し合うために、元気よく始められるよう助言する。	
2 計画委員の紹介		
3 議題の確認		
4 提案理由の説明	・提案者の思いや願いが学級全員の思いとなるよう助言する。 ・提案理由を共通理解できるように伝えるよう助言する。	
5 めあての確認	・提案理由をまとめたものであるため、はっきりと読み、意義付けを行う。	
6 決まっていること の確認	・全員が共通理解できるように、司会者がはっきり発表できるようにする。	
7 先生の話	・提案理由が話し合いの指針となるように意義付けを行う。 ・教育課程の変更に関わるなど児童が変えることのできない前提となる条件を再確認する。	
8 話し合うこと ① どの係があるか か考えよう	・司会が困っているとき話し合いの方向が迷ったとき、より話し合いの方法を学ばせたりしたいときは、積極的に助言し、話し合いの進め方や司会の進め方を共通理解できるようにする。 ・自分なりに理由を付けて発言できるように助言する。 ・発言者が偏らないよう、できるだけ多くの児童が発言できるように司会者に助言する。 ・なかなか発言できない児童や、進んで参加できない児童には、個別に支援をする。	
② 係の分担を決めよう	・提案理由を意図した意見や、理由が明確な意見、建設的な意見を称賞する。 ・安易に多数決を採らず、一人一人の思いや願いを生かして決められるよう助言する。 ◎意図的に自分の意見を発言しようとしている。(関心・意欲・態度)【発言・観察】 ◎提案理由をもとに自分の意見を考え、発言している。(思考・判断・実践)【ノート・発言・観察】	
9 決まったことの発表	・みんなが決まったことを再確認できるように、大きな声で発表できるようにする。	
10 学級会ノートへの記録	・自己評価をしっかりと行うように、個人的によかったところを声掛けする。 ・相互評価の際は、発言回数だけでなく、発言内容(建設的な意見や提案理由を意図した意見など)でみるよう助言する。	
11 感想発表	・提案理由を意図した発言等を称賞するとともに、前回よりよくなった点を伝える。	
12 先生の話	・計画委員の活動を称賞するとともに、次回の学級会の議題と今後の活動に向けての見直しを確認する。	
13 おわりの言葉		

8 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿
4/21(水) 朝の会 ○係ごとに活動する。 ・名前を考える ・役割分担案を作る。	・自分たちならではの係の名前を考えるよう助言する。 ・具体的な仕事の内容、いつ、誰が行うのか役割分担をしっかりと決めるようにする。	
係の名前の工夫 選び係(レク係)、爆発チーム(コント係)、あいさつ隊(あいさつ係)、健康のススメ(保健係)、何でもニュース(ニュース係)、調査隊(アンケート係)、かざりグループ(かざりつけ係)		
4/21(木) ~ ○係ごとの活動を開始する。	・係からの連絡コーナー、係のお問い合わせ(掲示)をつくる。 ・朝の会に「係からの連絡」の時間を取ったり、掲示を活用したりして学級全体への連絡を発表できるようにする。 ・各係のめあてに沿って、一生懸命に活動している係、児童を称賞する。 ◎係活動の内容や自分の役割、仕事の仕方について考え、実践している。(思考・判断・実践)【観察】 ・事前にアンケートを取り、係活動について振り返りができるようにする。	
6/9(木) 学級活動 ○「係の仕事を紹介しよう会」を開催する。	・係の認め合いの場をつくる。 ◎活動アンケート 1 あなたの係は、どんな仕事をしましたか。 2 あなたは、係の中でどんな仕事を一生懸命にしましたか。 ・「係の仕事を紹介しよう会」に進んで参加している。(関心・意欲・態度)【観察・感想カード】	

7分	・まとめる力があると思われていて嬉しい。 ・最高学年として張り切っている人が多い。 ・頑張っている人が多いけど、活動にまだ工夫が足りないかもしれない。 ・工夫するって、どうすればいいんだろう。	・児童から出された意見をもとに、問題点を明らかにし、みんなで解決していこうという意欲を高めるようにする。 ◎自己の生活上の問題に関心をもち、改善していくとしている。(関心・意欲・態度)【発言】	・インタビューとアンケートの集計結果
2分	アンケート結果から学級の実態を把握し、課題を共通理解する。(意識化・共通化)		
展開	3 本時の題材を知る。	・教師が本時の題材を提示し、解決に向けての意欲化を図る。	
2.5分	4 「仕事をよりよく工夫する」の満足度が低かった理由を考える。(原因追究) ・清掃担当や委員会などで決められた内容の仕事だけをすればいいと思込んでいたかもしれない。 ・内容を考えるのが面倒で、いつも同じになってしまう。これでは意味があるのかな。 ・リーダーとして縦割り班をまとめるのをいつも班長任せにしていたかもしれない。	・話し合いを通して問題の原因を探り、追究できるようにする。	・アンケートの集計結果
5分	5 工夫して仕事を行っている友だちの考えを聞き、どのようなよさがあるのかを話し合う。 ・工夫することのよさは、みんなにさらに喜んでもらえることだと思う。 ・案外仕事ができ、やりがいを感じるので自分のためになる。 ・工夫することで下級生の手本になるし、最高学年としての役割が果たせると思う。	・働くことの意義を再確認できるように、児童の考えを十分引き出すようにする。 ・アンケートの記述欄に「工夫して仕事をやるよさ」について触れている児童の取り上げて発表できるようにする。	
6分	6 最高学年として、学校や地域でどのようなことに取り組んでいったらよいかを話し合う。(解決策) ・清掃ボランティアは、学校のためにあるので頑張る。決められた場所以外もやりたい。 ・委員会で新しい頃組を提案したい。 ・縦割り班のリーダーとして、みんなに喜んでもらえるように遊びの計画を工夫したい。アンケートをとってみようと思う。 ・通学班では、地域の方にもあいさつをしっかりとできるように声を掛けたい。 ・地域のサッカーチームでキャプテンをしているので、練習後のゴミ拾いを率先してやりたい。	・活動の様子と工夫している点を示し、具体的な場面を想起できるようにすることで、実践に結びつく活動を考えていけるようにする。 ・自分のめあてを立てる際の参考にするように伝えておく。 ◎最高学年としての役割を自覚し、工夫することの大切さや自分の課題解決にあつた方法を理解している。(知識・理解)【発言・観察】	・活動場面の写真
7分	7 めあてを自己決定する。(個別化) (めあての例) ・清掃ボランティアで、今までやっていた場所だけでなく、ゴミのある所を2か所以上見つけてきれいにする。 ・週1回、昼休みに下級生を誘って遊ぶ。 ・給食委員会の「お食ふよう計画」で、みんなにしっかりと食べってもらうために魚の栄養について調べて紹介する。	・具体的なめあてを立てられるように助言する。 ・必要に応じて教師が見直し、修正する。 ◎自分に合った具体的な行動目標を考え、設定している。(思考・判断・実践)【カード】	・めあてカード
1.3分	8 友だちの発表を聞き、自分のめあてを再考する。 9 実践への意欲化を図る。	・友だちのめあてを機会を設けることで、自分のめあてが具体的にになっているかを考え、強い意志決定ができるようにする。	

8 事後指導

月日(曜日)	活動の場(主体)	活動の内容	指導上の留意点 ◎目指す児童の姿
9/28(水)	各目的活動場所(全員)	・自己決定しためあての達成に向けて実践活動に取り組む。	・活動に工夫が見られるようになった児童の様子や感想を集めて振り返りを称賞するとともによさを広めるようにする。
10/4(火)	朝の会(全員)	・達成できたことや反省点などを振り返る。 ・反省を生かし、継続して取り組む。	◎めあての達成に向かって、自ら考え行動している。(思考・判断・実践)【観察・カード】

1 議題

表記は、各学校で作成している年間指導計画の議題例を参考にします。文末は「～しよう」という表現が望ましい。議題に続き、内容項目を明記する。

2 児童の実態と議題選定の理由

提案された議題案の中から、本議題を選定した理由について、児童の実態を踏まえて具体的に述べる。

自主的、実践的な態度の育成を目指して、日常の学級や学校生活の中から、

1 題材

表記は、各学校で作成している年間指導計画の題材のとおりとなる。活動内容によって様々な表現が考えられる。題材に続き、内容項目を明記する。

2 児童の実態と題材設定の理由

年間指導計画に示された題材の中から、この時期(段階)に本題材を設定する理由について、児童の実態を踏まえて具体的に述べる。

児童が自己の問題として捉え、目標

議題が生まれた背景や、この議題に学級全員が取り組むことにより、学級や学校生活をどのように向上させていくのかについて、教師の指導観や願いを盛り込んで記述する。

3 評価規準

学校で作成している学級活動（活動内容(1)）の評価規準を基に、事前～本時～事後の一連の活動における評価規準を明示する。

同じような議題でも、学年や学級の実態によって表現は異なることになる。

4 事前の活動

計画委員会や学級全体で行う本時を迎えるまでの活動について、日時、活動の主体、活動内容、指導上の留意点、目指す児童の姿を明記する。

「課題の発見」から「問題の意識化」までの活動や計画委員会の活動（いつ、誰が、どのような活動を）などをまとめる。

5 本時のねらい

提案理由を踏まえた話を展開するために、本時の活動で特に留意する点を考え、簡潔に記述する。

6 展開（活動計画）

計画委員会が作成した活動計画（児童の作成したものの複写）を記載する。

議題、役割分担、提案理由の説明、めあて、確認しておくこと、話合いの順序（気を付けること、資料を含む）などを示す。

7 指導上の留意点

児童の作成した活動計画を受け、話合いの順序それぞれの段階での教師側の指導上の留意点を列挙する。

8 事後の活動

本時の活動における「集団討議」による「集団決定」を受けて、具体的な実践への準備、実践、一連の活動の振り返りなどの活動をどのように行っていくのか、児童の活動（日時、期間、場など）と教師の指導上の留意点、目指す児童の姿を記す。

や方法を設定できるよう、学級生活における児童の実態から、取り上げる題材の必要性について触れ、教師のもつ題材観、指導観についてまとめて記述する。

3 指導のねらい

年間指導計画に記された題材全体（事前～本時～事後）のねらいを簡潔に記述する。

4 評価規準

学校で作成している学級活動（活動内容(2)）の評価規準を記す。

この評価規準を基にして、具体的な評価の視点を決めていく。事前・本時・事後の一連の活動を見通した評価となるよう留意する。

5 事前指導

題材にかかわる児童の実態を把握し、課題を明確にするための諸調査や資料作成などの指導経過をまとめる。

6 本時のねらい

自他とのかかわりの中で、個人としての在り方を自己決定できるようにするための本時の指導のねらいを記述する。

7 展開

教師（計画委員会がかかわることも考えられる）が立てた本時の活動の流れを記載する。

学習活動（児童の活動）、指導上の留意点と目指す児童の姿（教師側の留意事項）、使用する教材・資料などを明記する。

8 事後指導

本時の授業を通じた「集団思考」の結果、「自己決定」したことについて、個人としての実践が実生活に定着するような手立てを記す。

また、定期的に実践状況を把握し、実践意欲が継続するような励ましの手立ても記すようにする。

題材によっては、家庭（保護者）に協力を依頼する内容についても明示するとよい。



【板書例】

(1) 学級や学校の生活づくり（上記の指導案での例）

先生の話

深まってきた発表

まとめる←比べ合う←出し合う

話し合ふこと② 係の分担

今ココ！

まとめる←比べ合う←出し合う

話し合ふこと① どんな係があるか

話し合ふこと

提案理由

議題

第2回 学級会

4年〇組がもっと楽しく、みんなが仲良くなれるような係を考えよう

3年生のクラスでは、係がありました。4年〇組にも係が必要だと思います。係があればみんながもっと楽しく、仲よくなれると思うからです。みんなで考えを出して4年〇組がもっと楽しく、全員が仲よくなれる係を考えたいと思います。

★…決定
●…賛成 ●…反対

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全（上記の指導案での例）

4/〇〇 最高学年としての役割

「最高学年としての役割」アンケート調査結果

仕事への責任	みんなのために、学校のために
よくできている	よくできている
できている	できている
ややできていない	ややできていない
できていない	できていない

下級生の面倒	協力、助け合い
よくできている	よくできている
できている	できている
ややできていない	ややできていない
できていない	できていない

相談して計画	工夫した取組
よくできている	よくできている
できている	できている
ややできていない	ややできていない
できていない	できていない

6年生になっての様子（アンケートから）

- ・最高学年として張り切っている人が多い
- ・活動に工夫が足りない
- ・下級生の面倒をよく見ている

課題 **仕事をよりよく工夫する**

どのような取組が必要か

自分のめあてを決めよう

中学校 ※活動内容の特質の違いによって、以下のようになります。

(1) 学級や学校の生活づくり

第3学年〇組 学級活動指導案
平成〇年 〇月〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 議題「大縄跳びを成功させよう」
(内容(1)学級や学校の生活づくり 7 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題選定の理由
本学級では、これまで学級活動委員会が中心となり、一人一人のよさが生きる議題（「教育実習生のお別れ会を成功させよう」「修学旅行の学級レクを決めよう」「係活動を発展させよう」など）で話し合い活動を行ってきた。その結果、生徒の活動意欲や集団や他者にかかわろうとする意識が高まったり、学級内の人間関係をよりよくしたりする言動が顕著になってきた。しかし、互いのよさを十分に理解できず、固定化した人間関係の中で過ごしている生徒も見受けられる。学期末に行った学級生活のアンケートでも「一部固定化している生徒達が気になる」「体育祭で団結できるかが不安」などの意見があった。
本議題は、学級生活アンケートから学級の課題を明確にし、これまでの成果を実感させながら、『中学校最後の体育祭を成功させたい』『学級の団結力や一体感が必要とされる大縄跳びで勝ちたい』という生徒の願いを生かし、議題化を図ったものである。体育祭は、学級としてのまとまりを強め、生徒一人一人にとって思い出深い行事となる。一方、大縄跳びなどの学級対抗の種目は、運動が得意な生徒・苦手な生徒、勝ちにこだわる生徒・無関心な生徒などの間で練習中に問題が発

(2) 適応と成長及び健康安全、(3) 学業と進路

第2学年〇組 学級活動指導案
平成〇年 9月〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 題材「自主的な家庭学習」
(内容(3)学業と進路 4 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用)

2 題材設定の理由
中学校2年生の段階では、一般的には自分にふさわしい学習方法について、ある程度の理解ができ、家庭学習を進めることができる時期である。しかし、現在の本学級の生徒は、学習を充実させようとする意識が低く、学習が必要だとは感じているものの、努力が十分でない者が多く見られる。また、家庭学習は宿題をこなすだけのものと考えている者もいる。これらの受動的な姿勢を改善し、家庭で意欲的に学習する習慣を身に付け、その継続により達成感や満足感を味わい、学習に主体的に取り組む力をはぐくみたい。現段階では、生徒が主体的に学習に取り組むことができないのは、方法や時間の使い方が分からないことが大きな要因となっている。そこで、生徒間で学習方法を紹介し合い、これまでの自分の方法を見直し、生徒個々の家庭学習をより充実させようと考え、本題材を設定した。

3 指導のねらい
○自主的に学習に取り組もうとする態度を育てる。
○全員が「効果的な学習方法」を紹介することで、自己有用感が味わえるようにする。

生したり、仲間が生きたりするなど、学級としての真価が問われる場面も出てくる。そこで、話し合った成果を生かし、互いに協力しながら支え合って活動していく態度を育成するとともに学級の課題をよりよく解決しながら達成感を味わわせることで、学級生活が充実すると考える。

3 指導のねらい

○学級の一員としての自覚を高め、学級に対する所属感や連帯感を深める。

○互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育てる。

4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	学級生活の向上や諸問題の解決に興味をもち、体育祭へ向けた活動に自主的・自発的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決に向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え、判断し、目標の実現に向けて実践している。	体育祭を成功させることの意義やそれに向けて学級で取り組むことの意味、諸問題の解決法について理解している。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法
9月2日(金)	帰りの会(学級全員)	・体育祭に向けてのアンケート調査を行う。	・落ち着いた態度で真剣に答えられるようにする。	
9月6日(火)	放課後(学級活動委員会)	・アンケート調査を集計し、議題を決定する。 ・提案理由を練り上げ、本時の活動計画を立て、話し合いの柱を検討する。	・生徒の思いを聞きながら、本時の流れなどを検討し、活動の見直しをもてるようにする。	・話し合いが深まるよう自主的に準備を進めようとしている。 (関)【観察】【評価カード】
9月8日(木)	帰りの会(学級全員)	・学級活動カードを配布し、各自が自分の意見をもつ。	・大躍進びが成功したイメージを、学級全体で確認する。	・議題に関心をもち、自主的に自己の考えをまとめている。 (関)【学級活動カード】

(2) 本時の指導と生徒の活動

活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法(評価の観点)【評価方法】	資料等
活動の開始	1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明	○指導上の留意点 ○目指す生徒の変と評価方法【評価方法】	・学級活動委員会で検討された過程・経過を示した上で、本時の概要を学級全体に説明する。 ・提案理由を補足しながら、学級への所属感が深められるような話し合いになるよう助言する。
活動の展開	5 教師の話 6 話し合い (1) 大躍進びを成功させるための作戦を考えよう。 (2) 役割分担を決めよう。	・過去の経験などを踏まえながら、様々な角度から考えるように助言する。 ○提案理由に基づいて、互いのよさを生かし合いながら、大躍進びを成功させるための具体案を考え、理由を示して意見を述べている。 (思)【観察】【学級活動カード】	学級活動カード
活動のまとめ	7 決定事項の確認 8 自己評価・感想記入 9 教師の話 10 開会の言葉	・学級活動委員(ノート記録)が決定事項を読み上げるようにする。 ・学級活動委員(司会)が指示を出すようにする。 ・話し合いの流れを方向付けた発言や学級活動委員の活動などを称賛するとともに、実践に向けて活動意欲を高めることができるよう助言を行う。	

(3) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法
9月12日(月)～22日(木)	放課後(学級全員)	・話し合い活動での決定事項に基づいて活動する。	・話し合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見守り、見届け、助言する。	・目標の実現に向け、互いに信頼し、支え合って決定事項を実践している。 (思)【観察】
9月24日(土)	体育祭当日(学級全員)	・話し合い活動や練習の成果が実るよう一掃一杯活動する。	・これまでの取組を想起させ、生徒の活動意欲が高まるよう助言する。	
9月30日(金)	学級活動(学級全員)	・活動過程や体育祭当日を振り返り、互いのよさを称賛するなどしながら今後の学校生活の在り方について考える。	・生徒の活躍について、具体例を示して称賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	・体育祭の成功に向けて学級で取り組むことの意味について理解している。 (知)【振り返りカード】

1 議題

表記は、各学校で作成している年間指導計画の議題例を参考にする。文末は「～しよう」という表現が望ましい。

議題に続き、内容項目を明記する。

2 議題選定の理由

提案された議題案の中から、本議題を選定した理由について、生徒の実態を踏まえて具体的に述べる。

現在までの指導の経過や生徒の実態

4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	学び方を学び、学習することの楽しさを自覚しながら、自分にふさわしい学習方法を見出し、意欲的に学習に取り組もうとしている。	不得意教科の克服を目指し、学習方法について意見交換をしながら、各自ができることについて考え、判断し、実践している。	主体的に学習に取り組むことの大切さや自分に合った学習方法を理解している。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法
9月1日(木)	帰りの会(学級全員)	・家庭学習に関するアンケート調査を実施する。	・自分の家庭学習について真剣に振り返られるようにする。	
9月2日(金)	放課後(学級活動委員会)	・アンケート調査を集計し、結果を資料にまとめる。	・個々の困っていることや悩んでいる気持ちを全体に分かりやすく伝えられるようにする。	・全体の意識が高まるように準備を進めている。 (関)【観察】【評価カード】
9月8日(木)	帰りの会(学級全員)	・家庭学習等についての悩みを共有する。 ・「効果的な学習方法」のカードを作成する。	・誰もが同じような悩みを抱えていることを知り、ともに努力していくこととする意欲が高まるようにする。	・仲間のためによりよい方法を考え、分りやすくまとめている。 (思)【学習方法カード】
9月13日(火)	放課後(学級活動委員会)	・「効果的な学習方法」をまとめた資料を作成する。 ・本時の進め方を確認する。	・分りやすい資料が作成できるようにする。 ・本時の流れを確認し、活動の見直しをもてるようにする。	・学級全体が関心をもち、意欲が高まるよう、自主的に準備を進めようとしている。 (関)【観察】

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動テーマ「自分に合った学習方法を見つけよう」

イ 本時のねらい

○効果的な学習方法を発表し合う中で、自己有用感を味わうことができるようにする。

○仲間の発表を生かし、自分の学習方法を見直し、家庭学習への意欲を高める。

ウ 展開

活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法(評価の観点)【評価方法】	資料等
活動の開始	1 本時の活動を知る 2 本時の活動の流れの確認	○指導上の留意点 ○目指す生徒の変と評価方法【評価方法】	・教師が本時のねらいを説明し、本時の活動の流れ・準備を行った学級活動委員を紹介する。 ・学級活動委員から「資料説明」発表に当たっての注意【聞き方のポイント】を加えて本時の流れを説明する。
活動の展開	3 家庭学習の方法の紹介 ○効果的な時間の使い方 ○全教科に共通する方法 ○各教科特有の方法 4 自分に生かしたい学習方法の発表	・日課表を提示し、どの時間帯に学習するかを口で訴える形で説明できるように助言しておく。 ○自分のノートや部類に提示してあるもの等を利用して、工夫した発表ができる。 (思)【観察】【ワークシート】 ○発表を真剣に聞き、仲間から学ぶとしている。 (関)【観察】【ワークシート】 ○仲間の発表から自分に生かせるものを選び、発表できる。 ・仲間の実践を称賛したり、自分が利用したい方法や感謝の気持ちを発表し合ったりすることから、学習方法の相互評価ができ、互いのよさを学び合う態度へと結びつけていく。 (知)【観察】【ワークシート】	・発表資料 ・ワークシート
活動のまとめ	5 これまでの反省と具体的な実践方法の決定 6 教師の話	○自分なりの実践方法を見だし、ワークシートに記述し、進んで取り組もうとしている。 (知)【観察】【ワークシート】 ・本時の活動を振り返るとともに、今後の実践への意欲が高まるよう励ましの言葉を掛ける。	

(3) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の変と評価方法
9月15日(木)から毎週	朝の会(学級全員)	・実践目標の達成度を自己評価する。	・一週間に自己評価を行う。 ・教師の励ましの言葉を添える。	・次の週はさらに努力しようとする意欲をもつ。 (関)【自己評価表】
話し合い後、2～3週	学級通信 学級新聞	・学級全体の前向きな活動から個々の意識の高揚を図る。	・活動の内容を家庭に伝えることにより、家庭の協力を得ながらさらに学習意欲を高め、実行できるようにする。	・仲間の頑張りを家族からの励ましを支えにし、強い意志をもって実践している。 (関)【自己評価表】

1 題材

表記は、各学校で作成している年間指導計画の題材のとおりとなる。活動内容によって様々な表現が考えられる。

題材に続き、内容項目を明記する。

2 題材設定の理由

年間指導計画に示された題材の中から、この時期(段階)に本題材を設定する理由について、生徒の実態を踏まえて具体的に述べる。

を中心に据える。

3 指導のねらい

この議題の事前～本時～事後の一連の活動における指導のねらいを書く。

4 評価の観点と評価規準

学校で作成している学級活動（活動内容(1)）の評価規準を基に、事前～本時～事後の一連の活動における評価規準を観点別に明示する。

同じような議題でも、学年や学級の実態によって表現は異なることになる。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

学級活動委員会や学級全体で行う本時を迎えるまでの活動について、日時、活動の場、活動の主体、活動内容、指導上の留意点、目指す生徒の姿と評価方法を明記する。

「課題の発見」から「問題の意識化」までの活動や学級活動委員会の活動（いつ、誰が、どのような活動を）などをまとめる。

(2) 本時の指導と生徒の活動

学級活動委員会が作成した活動計画に基づき、本時の活動の流れ（活動の内容、指導上の留意点、目指す生徒の姿と評価方法、資料等）について、段階を追って記載する。

◇活動の内容

活動内容を次第の順に明示する。

◇指導上の留意点

活動を円滑に進めるための手立てや教師が気を付けるべき点を記す。

◇目指す生徒の姿と評価方法

指導のねらいに対する具体的な観点・評価方法を示す。

◇資料等

使用する教材教具・資料を記す。

(3) 事後の指導と生徒の活動

本時の活動における「集団決定」を受けて、具体的な実践への準備、実践、一連の活動の振り返りなどの活動をどのように行っていくのか、生徒の活動（日時、期間、場など）と教師の指導上の留意点、目指す生徒の姿を記す。

3 指導のねらい

年間指導計画に記された題材全体（事前～本時～事後）のねらいを記す。

4 評価の観点と評価規準

学校で作成している学級活動（活動内容(2)(3)）の評価規準を記す。

この評価規準を基にして、具体的な評価の視点を決めていく。事前・本時・事後の一連の活動を見通した評価となるよう留意する。

5 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

題材にかかわる生徒の実態を把握し、課題を明確にするための諸調査や資料作成などの指導経過をまとめる。

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動テーマ

題材を生徒側に立った活動として捉え、活動テーマを設定する。

イ 本時のねらい

自他とのかかわりの中で、個人としての在り方を自己決定できるようにするための本時の指導のねらいを記述する。

ウ 展開

教師（学級活動委員会がかかわることも考えられる）が立てた本時の活動の流れを記載する。

◇活動の内容

活動内容を次第の順に明示する。

◇指導上の留意点

活動を円滑に進めるための手立てや教師が気を付けるべき点を記す。

◇目指す生徒の姿と評価方法

指導のねらいに対する具体的な観点・評価方法を示す。

◇資料等

使用する教材教具・資料を記す。

(3) 事後の指導と生徒の活動

本時の「集団思考」の結果、「自己決定」したことについて、生徒個々が実践すること、実生活に定着させるための教師の働き掛け、励ましなどを記す。

家庭（保護者）への依頼事項等も、ここに示す。

【板書例】

(1) 学級や学校の生活づくり（上記の指導案での例）

先生の話

決まってるのよの確認

話し合うこと② 役割分担

話し合うこと① 成功のための作戦

まとめ ← 比べ合う ← 出し合う

今ココ!

- ・円陣を組んで叫ぶ
- ・縄を回すスピード
- ・合図とかけ声
- ・並ぶ順番
- ・回す人の人選

★…決定
●…賛成
○…反対

議題

第6回 学級会

提案理由

大縄跳びを成功させよう

これまで私たちのクラスは「有言実行」を合言葉に団結すべきときに、日常的には未だ固定化した人間関係の中で生活をしていまいが、これは、まだ互いのよさを理解できず、絆が深まっていないことが原因だと思えます。そこで、中学校生活最後の体育祭で行われる大縄跳びを通して、学級の課題を解決し、クラスの絆をさらに深めるために、お互いを認め、支え合い、団結していくことが必要と考え、提案しました。

【体育祭に向けてのアンケート】

1 体育祭に向けて必要なこと

2 どの種目に力を入れるか

- ・大縄跳び…20名
- ・全員リレー…9名
- ・組体操…2名
- ・協力…5名
- ・団結…10名
- ・練習…2名

(2) 適応と成長及び健康安全 (3) 学業と進路（上記の指導案での例）

自主的な家庭学習

「今の家庭学習を見直そう」アンケート調査結果

1 家庭学習は必要だと思うか？

● ア 思う
● イ 思わない

◎ 家庭学習が不要だと思う人は一人もいない!

2 進んで学習をしているか？

ア 毎日している
イ する日が多い
ウ たまにする
エ 宿題だけ
オ ほとんどしない

・必ず毎日やっている人はわずか
・はっきりと決めていない人がほとんどを占める
なぜ?
・家庭学習のやり方がわからない

3 家庭学習の方法がわかっているか？

⇒ 「やり方がわからない」という人は、半分以上!!

● ア わかっている
● イ わからない

課題 自分に合った家庭学習の方法を知ること

家庭学習の方法の紹介

効果的な時間の使い方

- ・「朝型」「夜型」の見極め
- ・お風呂やトイレも無駄にしない
- ・おやつ、夜食の時間を決める
- ・睡眠時間や休憩時間を決める
- ・〇〇分やったら、一度体を動かす
- ・その日の教科、目標を決めて実行

全教科に共通する方法

- ・黙読ではなく、口で唱え、必ず書いて覚える
- ・まとめのノートと反復書き取りのノートの使い分け

各教科特有の方法

自分に生かしたい方法 ※自分で決定!

5 学級活動の授業を実践する上での留意事項

(1) 学級活動の活動形態

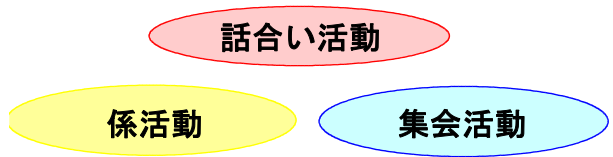
学級活動の指導の成果を上げるためには、活動内容(1)(2)(3)の特質を踏まえ、次に示す活動形態に即して効果的に活動が展開できるようにします。

① 話し合い活動

活動内容(1)の集団討議・集団決定を

伴う、いわゆる「学級会」における話し合い活動（一般的に、これを主に「話し合い活動」と称することが多い）、活動内容(2)(3)の集団思考・自己決定を伴う、いわゆる「適応指導」「学業指導」「進路指導」における話し合い活動（一般的に、これを主に「話し合い」と称することが多い）の2種類があります。それぞれの特徴に応じた話し合い活動となるよう、常に心掛けておく必要があります。

【学級活動の活動形態】



② 係活動

児童生徒が学級内の仕事を分担処理するために、自分たちで話し合っ**て係の組織をつくり、全員でいくつかの係に分かれて自主的に行う活動形態**です。児童生徒の力（教師の指示ではない）で学級生活を豊かにすることをねらいとします。

従って、設置する係の種類や数は、学年や学級によって異なるので、児童生徒が十分に創意工夫して計画し活動できるよう適切に指導することが望まれます。

〔例〕教室を飾る係、新聞を発行する係など

設定の仕方▶1か月（4週）4回の学級活動のうち、1時間を充てるなど。

③ 集会活動

学級生活を一層楽しく充実・向上させるために、学級の全児童生徒が集まって行う活動形態です。学期ごとなどに学級会において話し合っ**て創意工夫して計画し、自主的に運営**するため、児童生徒の発達の段階に応じて適切に指導することが必要となります。

〔例〕スポーツ的な集会（ミニ運動会、ドッジボール大会…）

級友に関する集会（お誕生会、転入生歓迎会、お別れ会…）

季節に関する集会（こいのぼり集会、七夕集会、収穫を祝う会、カルタ会…）

発表会的な集会（夏休み作品発表会、読書発表会、係活動発表会…）

設定の仕方▶学級会で話し合わせ、開催可能な学級活動の時間を充てる。

(2) 学級活動で使用する各種の資料等 ※主として活動内容(1)で活用するものです。

① 提案カード（議題カード） ～議題の収集、選定のために～

活動内容(1)の児童生徒が学級生活の中で発見した議題を提案するものです。

【提案カードの例】

提案カード	平成	年	月	日	()	氏名
提案します	()	個人から	()	係から		
提案したいこと	()	みんなでやってみたい	()	みんなでつくってみたい	()	みんなで解決したい
-提案理由-						
※校種・学年の発達段階によって、様式・体裁を工夫して作成してください。						
この提案については、						
1	学級会で話し合います。	4	先生にお願いします。			
2	委員会や係にお願いします。	5	その他 ()			
3	朝の会・帰りの会で話し合います。	計画委員会より				

児童生徒が学級や学校の生活上の問題に気付いたときに、いつでも議題を提案することができるように、学級活動コーナーに「提案カード（議題カード）」を常備しておきます。これは、学級や学校の生活の向上に対する関心を高めることにつながります。

また、議題例（下表参照）

を提示して知らせることで、様々な課題を見つける目を育てることにつながります。

提案カードの活用や議題例の提示を進めて、学級や学校の生活の向上を目指す児童生徒を育てましょう。

提案された議題は、計画委員会（学級活動委員会）で整理し、朝の会や帰りの会でみんなに知らせ、全員で話し合うべきものを選定します。

【議題例（学年段階ごと）】

学級会の議題例

時期	低学年	小学校 中学年	高学年	中学校
第1学期	<ul style="list-style-type: none"> ◇楽しい学級会をしよう ◇学級のマークをつくろう ◇6年生にありがとうの気持ちを伝えよう ◇みんなのために係を決めよう ◇仲良くボールを使おう ◇みんなで遊ぶ日をつくろう ◇「みんななかよし大作戦」を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学級会を自分達で進めよう ◇学級の旗（歌）をつくろう ◇「友だちいっぱいづくり集会」をしよう ◇学級会の名前を決めよう ◇学級が楽しくなる係を決めよう ◇全校児童集会「〇〇小祭り」を成功させよう ◇雨の日のできる「学級ギネス大会」をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「6年〇組スタート集会」をしよう ◇学級の歌をつくろう ◇学級を豊かにする係を決めよう ◇兄弟学級交流会をしよう ◇わくわくバスレクをしよう ◇背面黒板の使い方を決めよう ◇思い出に残る「学級の歩み」をつくろう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学級目標（めあて）を決めよう ◇第1学期の目標を立てよう ◇学級の組織を編成しよう（係活動を決めよう） ◇生徒会活動の委員を決めよう ◇生徒総会の議案書の討議をしよう ◇遠足（自然体験学習、林間学校、修学旅行）を成功させよう ◇第1学期を振り返ろう
第2学期	<ul style="list-style-type: none"> ◇「夏休み発表会」をしよう ◇遠足のグループを決めよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇クラスパワーアップ大作戦を考えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇2学期パワーアップ大作戦 ◇係活動を見直そう 	<ul style="list-style-type: none"> ◇第2学期の目標を立てよう ◇集団生活のルールを考えよう

2 学期	◇係活動をもっと楽しくしよう ◇「大好きな本を紹介する会」をしよう ◇「縄跳び集会」をしよう ◇学級会の係（司会グループ）を順番にしよう ◇運動会の合言葉を決めよう	◇「みんななかよし」作戦を考えよう ◇係活動をもっと楽しくしよう ◇運動会のめあてを決めよう ◇「2学期がんばったね集会」をしよう	◇みんなの力で運動会を盛り上げよう ◇「学級ギネス大会」をしよう ◇学級文庫をつくろう ◇朝の会・帰りの会を工夫しよう	◇体育祭（文化祭、合唱コンクール）を成功させよう ◇学級生活を見直そう ◇係・当番活動を見直そう ◇学級組織を再編（改選）しよう ◇第2学期を振り返ろう
第3 学期	◇思い出文集をつくろう ◇「寒さに負けない集会」をしよう ◇あいさつ運動に協力しよう ◇「仲よし給食」をしよう ◇「1年生楽しかったね集会」をしよう	◇係活動をもっと工夫しよう ◇1/2成人式をしよう ◇ペア学級の友だちをもっと仲良くなるよう ◇クラスのオリンピックをしよう ◇学級思い出文集をつくろう	◇思い出文集をつくろう ◇お年寄りの方との交流会をしよう ◇6年生を送る会を成功させよう ◇卒業前に学校に感謝の気持ちを表そう	◇学級カルタ大会を企画しよう ◇学級文集を作成しよう ◇3年生を送る会を成功させよう ◇後輩にメッセージを送ろう ◇卒業記念学級球技大会をしよう

議題の集め方

- 1 議題ポストへの提案から
- 2 朝の会や帰りの会で話題になったことから
- 3 学級日誌などに書かれていることから
- 4 係活動や当番活動の感想から
- 5 代表委員会や各委員会から依頼されたこと、または、学級から児童会・生徒会に提案したいこと

提案された議題の扱い方の例

- 1 短時間で集団決定できそうなもの
⇒朝の会や帰りの会で
- 2 係活動に任せるとよいもの
⇒該当の係へ連絡
- 3 自分たちで解決が困難なもの、個人的なもの
⇒先生に相談

望ましい議題の条件

- 1 多くの児童生徒が早急な解決を望んでいる議題
- 2 学級内の問題で、学級全員が協力しなければならない議題
- 3 決めたことを自分たちの力で具体的に実行できる議題
- 4 創意工夫の余地がある議題
- 5 学級や学校生活をよりよいものにする議題

児童生徒に任せられない内容

- 1 個人情報やプライバシーにかかわること
- 2 相手を傷つけるような結果が予想されること
- 3 教育課程にかかわること
- 4 校内のきまりや施設・設備の利用にかかわること
- 5 金銭徴収にかかわること
- 6 健康・安全にかかわること

議題の選定に当たっては、上記の「望ましい議題の条件」に合っているか、「児童生徒に任せられない内容」に触れていないか等の視点から指導助言して選ぶようにします。選ばれなかった議題の取扱いについては、提案カード（議題カード）を通じて提案者に伝えます。

② 活動計画 ～本時の話し合い活動の進行のために～

議題を決定した後、本時の話し合い活動がスムーズに進行できるようにするために、

【活動計画】（参考例）

第 回 学級会 活動計画		平成 年 月 日 () 第 校時
議題		
役割分担		
提案理由		
めあて		
決まっていること		
話し合いの順序	気を付けること	資料・時間
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明 5 めあての確認 6 決まっていることの確認 7 先生の話 8 話し合うこと ① ② 9 決まったことの発表 10 学級会ノートへの記録 11 感想発表 12 先生の話 13 おわりの言葉	※校種・学年の発達段階によって、様式・体裁を工夫して作成してください。	

教師の適切な指導の下、計画委員（学級活動委員）と提案者が作成するものです。

《作成手順》

※教師は、計画委員（学級活動委員）とともに活動計画を立てる。

(1) 学級会の役割分担

司会、記録を決め、役割に応じためあてを決める。

(2) 提案理由の明確化

計画委員（学級活動委員）と提案者が話し合い、提案理由を分かりやすくまとめ、話し合いのめあてをつくり、話し合いの方向性を明ら

かにする。

(3) 話し合うこと（柱）の決定

その活動をするために「話し合うこと」（柱）を全て挙げ、1単位時間をかけて話し合う価値のある内容を「話し合うこと①」「話し合うこと②」というように2～3つ決める。それ以外のものは、朝の会や帰りの会で話し合うようする。

③ 学級会ノート、学級活動カード ～話し合い活動の理解、考えの整理のために～

学級会の話し合い活動について、児童生徒全員の共通理解を図るとともに、各自が自分の考えを整理したり、振り返ったりするために活用するものです。児童生徒の実態【学級会ノート（学級活動カード）】

第 回 学級会ノート		平成 年 月 日 () 第 校時
		年 組 番 氏名
議題		
提案理由		
話し合いのめあて	※校種・学年の発達段階によって、様式・体裁を工夫して作成してください。	
決まっていること		
司会グループ	司会 () ()	黑板記録 () () ノート記録 ()
話し合うこと	自分の意見（理由）	
①		
②		
③		
振り返り		
☆めあてを考えて話し合うことができた	よくできた	できた もう少し
☆友だちのよいところを考えながら聞くことができた	よくできた	できた もう少し
☆自分の意見を進んで発表できた	よくできた	できた もう少し
☆決まったこと、自分のすることが分かった	よくできた	できた もう少し
【感想】（自分の頑張ったところ、友だちのよかったところ）		

にに応じて使いやすいように工夫（学年の発達段階など）して作成します。

全員が共通する部分については、計画委員会（学級活動委員会）が事前に記入して印刷し、配布します。

児童生徒は、事前に議題についての自分の考えを整理し、理由とともに書き込んでおき、学級会（本時の話し合い活動）で発表しやすいようにしておきます（ただし、事前の考えに固執しないように留意します）。

学級会（本時の話し合い活動）の中では、話し合いの中での友だちの考えや意見、気が付いたことなどを書き加え、自分と他者の考え・意見を比べることができるようになるとよいでしょう。

④ 司会者のための話し合いの進め方 ～進行の仕方を覚えさせるために～

本時の活動の司会進行を担当する計画委員（学級活動委員）のための進行マニュアルです。

【話し合いの進め方（参考例）】

話し合いの進め方

話し合いの進行を覚えるためのもので、児童生徒の成長の「補助輪」的な資料になります。児童生徒の進行が慣れてきたら、徐々に外していき、自分の言葉で進行できるようにします。

話し合いの順序	話す内容（基本的なもの）
1 はじめの言葉	司会：これから、第□□回学級会（〇〇会議）を始めます。
2 計画委員（学級活動委員）の紹介	司会：計画委員（学級活動委員）が自己紹介をします。 司会の□□です。話し合いが活発になるように頑張ります。 ※例：役割ごとの本時の目標を述べる。 司会の□□です。意見をきちんと整理して進めます。 黑板記録：黑板記録の□□です。分かりやすく板書をまとめます。 黑板記録：黑板記録の□□です。丁寧に板書するよう心掛けます。

3 議題の確認	ノート記録：ノート記録の[]です。聞き漏らさずしっかり記録をまとめます。
4 提案理由の説明	司会：今日の議題は[]です。 議題を提案してくれた[]さんに、提案理由の説明をしてもらいます。 []さん、お願いします。 提案者：今日の議題を提案した[]です。 提案理由を説明します。 ※以下、学級会ノートに記載されている提案理由を読み上げる。
5 めあての確認	司会：今日の話合いのめあては、[]です。
6 決まっていることの確認	司会：今日の話合いまでに、決まっていることの確認をします。 []こと、[]ことが決まっています。
7 先生の話	司会：話合いを始める前に、[]先生からお話があります。 []先生、お願いします。 ～学級担任の話～ ありがとうございました。
8 話し合うこと	司会：それでは、話合いに入ります。 今日、話し合うことは
話し合うこと①	① [] ② []です。 まず最初に、① []について話し合います。 *意見を出してください。 ※話合いの状況に応じて、これらの問い掛けや指示を行う。 *別の意見はありませんか。 *質問はありませんか。 *今の意見と同じ意見の人はどの位いますか。手を挙げてください。 *今までの意見に賛成の意見や、付け足しの意見はありませんか。 *〇〇〇の意見に賛成の人で、他に理由はありませんか。 *〇〇〇の意見に反対の人で、他に理由はありませんか。 *（意見が出ない場合）意見が出ないようなので、グループで（近くの人と）[]分間、相談してください。 ここまでの皆さんの意見をまとめると、[]という意見が多いのですが、決定してよいですか。 ※返事や拍手等で承認、賛同しない児童生徒がいれば、さらに話し合う。
話し合うこと②	次に、② []について話し合います。 ※以下、上記*の投げ掛けを繰り返して話合いを進行する。
9 決まったことの発表	司会：今日の話合いで決まったことを、ノート記録の[]さんに発表してもらいます。 []さん、お願いします。 ノート記録：話し合うこと① []については、[]に決定しました。 話し合うこと② []については、[]に決定しました。
10 学級会ノートへの記録	司会：今日の話合いについての振り返りを学級会ノートに記入してください。
11 感想発表	司会：感想発表をしてくれる人はいますか。 []さん、お願いします。
12 先生の話	司会：それでは、今日の話合いについて、先生からのお話があります。 []先生、お願いします。
13 おわりの言葉	司会：これで、第[]回学級会（〇〇会議）をおわりにします。

上記に示したのは、あくまでも標準的な進行例です。これを参考として、学級集団の成長の様子に合わせ、実態に適した進行を工夫しましょう。

⑤ 学級会グッズ（準備しておくといもの）

学級会をスムーズに進行するためには、各種の表示やカードなど、いわゆる“学級会グッズ”を活用して、児童生徒が話し合い活動に自主的に取り組むことができるようにすることが大切です。

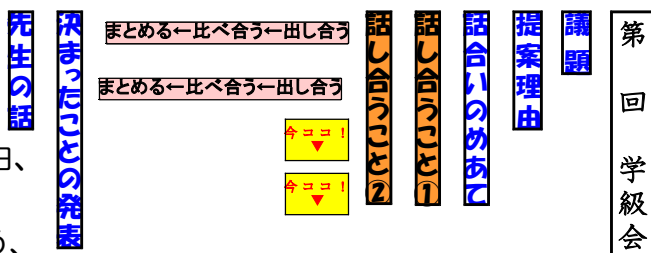
ここでは、学校現場で一般的に使われている“学級会グッズ”を紹介します。

【話し合いの流れの表示】

板書に提示する本時の活動の流れを示すガイド短冊です(右図参照)。

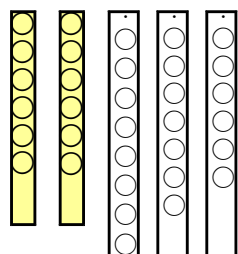
学級会のタイトル、議題、提案理由、話し合いのめあて、話し合うこと(話し合いの柱)、話し合いの段階(出し合う、比べ合う、まとめる)、現在の話し合いの位置確認表示(今ココ!)、決まったこと

の確認、先生の話などの表示を作成し、学級会を行う際のガイド表示とします。



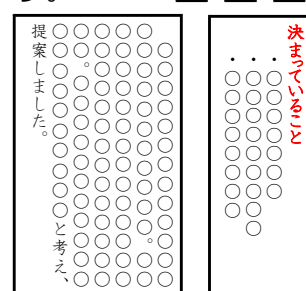
【意見等を書き入れる短冊】

話し合う内容や話し合いで出た意見等を記入して、黒板に提示する短冊です。無地の紙をラミネート加工して、水性ペン(ホワイトボードマーカー等)で記入すれば繰り返し使うことができます。



【提案理由や決まっていることの掲示】

マグネット付きのミニ黒板やミニホワイトボード、画用紙や模造紙などを使用して、提案理由や本時まで決まっていることを書き込んで、黒板等に提示します。



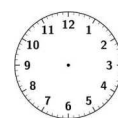
【賛成や反対、決定などのマーク】

賛成や反対意見が出るごとに板書の意見を書いた短冊に付けていくものです。決定マークもあればいいでしょう。色付きのマグネットなどがよく利用されます。

- 賛成
- 反対
- ★ 決定

【時間の目安】

話し合い活動の時間の目安(進行予定時刻)を指し示すための表示です。



【役割分担を示すプレート】

本時の活動を進行する計画委員(学級活動委員)の役割(司会、黒板記録、ノート記録)を示すプレート。当日の座席にみんなに分かるように提示します。



⑥ 学級活動コーナー

学級活動に関する情報や資料を掲示したり、話し合い活動で使用する用具類を収納したりするコーナーを言います(右図参照)。

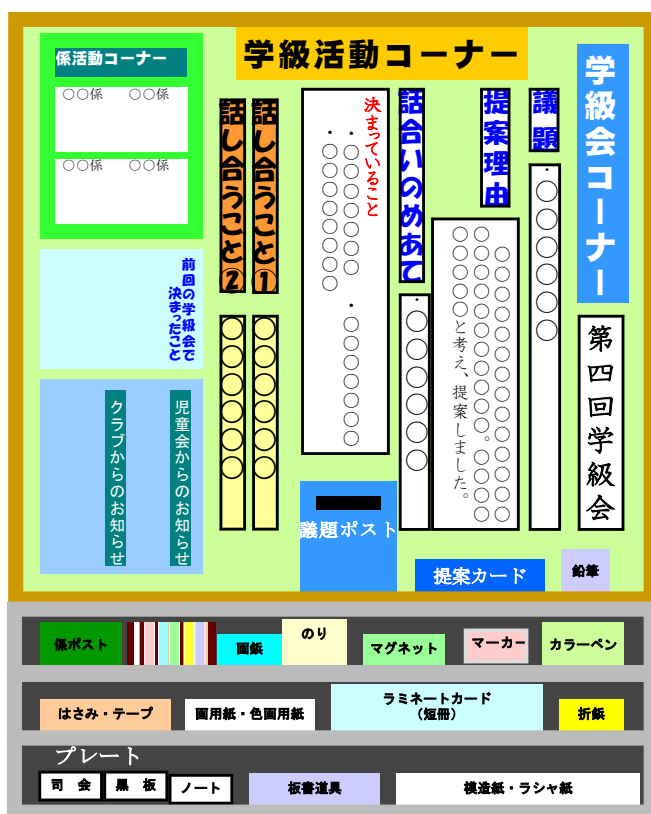
ホームルーム教室の一角に常設しておく、児童生徒の自主的、自発的な活動が促進され、円滑に学級活動が進行できるようになります。一般的に、次のようなものの提示・設置が考えられます。

【学級会コーナー】

次回の議題、提案理由、話し合いのめあて、決まっていること、話し合うこと(柱)、議題ポスト、提案カードなど

【係活動コーナー】

係活動全体の連絡、各係からの連



絡や広報など

【児童会・生徒会、クラブからのお知らせコーナー】

特別活動の他の内容との関連付けを図ります。

児童会・生徒会の委員会活動や代表委員会からの連絡、クラブ活動の連絡など

⑦ 学級のあゆみ

学級会で話し合って実践したことや学校行事の様子など、自分たちの活動をまとめて学級の掲示物を作成し、年間通して取り組んでいくものです。

児童生徒は、活動のあゆみを共有し、振り返ることができ、学級への愛着や誇り、学級生活の向上を実感できるようになります。教室側面や背面を使用するのが一般的です。

○年○組 学級のあゆみ

4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入学式 0000	〇〇集会 0000	〇〇大会 0000								

→ 学級会で話し合い、全員で取り組んだこと、学校行事で学級全体で参加したことなどを記録し、まとめて作成します。

(3) 学級活動の指導上の留意事項

① 国、県、市町村の刊行物の活用

授業づくりの拠り所は、もちろん、国が示す学習指導要領及びその解説(特別活動編)です。

また、県が示す教育課程編成要領のシリーズ(編成要領、指導資料、評価資料、指導実践事例集)を併せて参考にします。

その他にも、国(文部科学省、国立教育政策研究所)や県(埼玉県教育委員会)が刊行した公式のリーフレットがあります。これらには、学級活動の基本的な指導過程や板書、児童生徒の活動のさせ方など、授業づくりに必要な情報が具体的に示されていますので、積極的に活用しましょう。

特別活動リーフレット▶

左：小学校(平成25年発行)
右：中学校(平成26年発行)
文部科学省
国立教育政策研究所



学級活動リーフレット▼

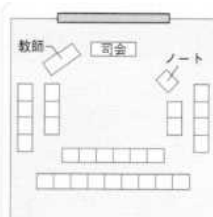
左：平成24年版
右：平成26年版
埼玉県教育委員会



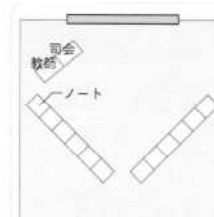
② 話し合い活動の隊形(座席配置)

活動内容(1)「学級会」では、互いに顔を見合いながら話し合いができる形が理想とされます。

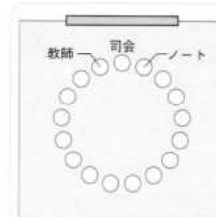
したがって、黒板(教室前面)に向かって「コの字型」の隊形



コの字型(一般的)



V字型(少人数向け)



車座型(低学年向け)

をつくって行うのが一般的です。また、児童生徒の人数が少ない場合は、全員が向かい合って黒板も見やすい利点のある「V字型」の隊形も有効です。小学校低学年の段階では、児童同士の距離が近く一体感が高まる「車座型」の隊形も効果的です。

いずれの隊形でも、司会は全員の顔と黒板が見える位置、黒板記録は黒板付近、ノート記録は黒板全体が見える位置にするとよいでしょう。

活動内容(2)(3)であっても、児童生徒の話し合いの活性化につながるよう、扱う題材、内容項目によって活動内容(1)と同様の隊形を取ってみても効果があります。

③ 計画委員会・学級活動委員会(児童生徒の主体的な活動の促進)

計画委員会(小学校)、学級活動委員会(中学校)は、学級活動を児童生徒主体の

活動とするために、教師の適切な指導の下、学級活動の計画を立てたり、役割分担を決めたりするなど、実践するまでの準備をする準備等を行う組織です。話し合い活動を児童生徒の自発的、自治的な活動とするために必要不可欠なものです。

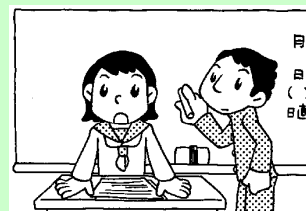
計画委員会・学級活動委員会のつくり方・運営の仕方は次のとおりです。

計画委員会・学級活動委員会のつくり方・運営の仕方

- 1 学級全員を5、6人程度のグループ（生活班など）の数グループに分ける
 ※輪番制で学級の全グループに司会進行を経験させることを目標とします。
 ※発達段階や学校・学年・学級の児童生徒の実態に応じたグループ編成を行います。
- 2 グループ内で学級活動時の各自の役割を分担する

【役割分担】（一般的な例）

司会 ----- 当日の司会進行、指名、円滑な運営
 黒板記録 ----- 意見の板書、整理、決定事項の明確化
 ノート記録 ----- 板書された意見の記録、決定事項の確認
 提案者 ----- 問題を明確にする資料の作成、提案発表



- 3 教師と委員のメンバーで活動の計画を立てる

【手順】

- ①議題の収集（議題ポスト、学級日誌、アンケート等から）、題材の確認（教師から）
- ②議題・題材の整理と決定（提案された問題の内容整理と議題の決定、題材の決定）
- ③活動計画の作成（話し合い活動の手順の検討）

- 4 本時の話し合い活動を進行する ※活動内容(1)の例。(2)(3)は教師の指導による

1 はじめの言葉	8 話し合うこと（話し合いの柱）①②
2 計画委員（学級活動委員）の紹介	9 決まったことの発表
3 議題の確認	10 学級会ノートへの記録
4 提案理由の説明	11 感想発表
5 めあての確認	12 先生の話
6 決まっていることの確認	13 おわりの言葉
7 先生の話	

- 5 活動を振り返り、今後に生かす

【手順】

- ①感想のまとめ（学級会ノート等） ②次回の話し合い活動に向けた課題の確認

活動内容(1)は児童生徒主体の「学級会」、活動内容(2)(3)は教師主導型の「学級指導」というように決め付ける必要はありません。どの教科等でも、教師が語りっ放し（すべて先生が指示するだけ）のような授業では、児童生徒は楽しさを感じません。どのような授業でも、「児童生徒が主体的に活動する場面」を設けることが、教師の努力目標となります。

活動内容(2)の適応指導や活動内容(3)の学業指導・進路指導であっても、授業の組み立て方によっては、児童生徒が司会進行をしたり、調べたことを発表し合ったりすることが可能です。常に「児童生徒に活躍する場を与えること」を考えて授業をつくっていく姿勢を保ち、児童生徒が主体的に活動を行う場面を多く設けましょう。

④ 児童生徒の発言の仕方

話し合い活動の中で、どのような発言がふさわしいのか、教師は児童生徒に教えていく必要があります。基本的な発言の仕方を考えてみましょう。

児童生徒の発言の仕方

- 1 自分の意見を言ってみよう！



ぼくは、〇〇したいんだけどなあ。

こんなふうに言ったらどうかな？

ぼくは、〇〇したいと思います。理由は、□□□□だからです。



2 わからないときは、そのままにしない！



あれ？ 今の意見の意味が、わからないなあ。



〇〇さんに質問します。今、言ってくれた意味が分からないので、もう一度、説明してください。

3 同じ意見は応援しよう！



あの意見は、ぼくと同じ考えだな。



ぼくも〇〇さんの意見に賛成です。理由は□□□だからです。

4 自分の考えが変わったぞ！



わたしの意見より、こっちの考えの方がいいなあ。



〇〇さんの意見を聞いていたら、この意見の方がいいと思いました。

5 友だちの意見も大事にしよう！



反対すると、〇〇さんに悪いかなあ。



〇〇さんの考えもいいと思うけれど、□□するともっとよくなると思います。

⑤ 話し合い活動の仕方

【活動内容(1)の場合】

活動内容(1)の話し合い活動「学級会」では、折り合いを付けて合意形成を図ることをねらいとしています。そこで、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」という3段階討議法の流れを踏まえて展開し、多様な意見を生かした集団決定ができるようにします。

3つの段階を踏まえた展開 ※「3段階討議法」と言われます。

- 1 出し合う** 自分の考えを自分の言葉で発表する。
提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自分の言葉で発表できるようにする。
- 2 比べ合う** 出された意見を分類・整理して比べ合う(分かり合う、聞き合う)。
出された意見に対して考え(賛成・反対)を述べ合い、意見を比べ合うことによって、よりよい取り組み方を探っていく。
- 3 まとめる** 話し合いを収束し、学級みんなの総意をまとめ、決定する。
比べ合った結果をまとめ、みんなが納得できる意見を選んだり、納得できる形に修正したりして、決定する(集団決定)。

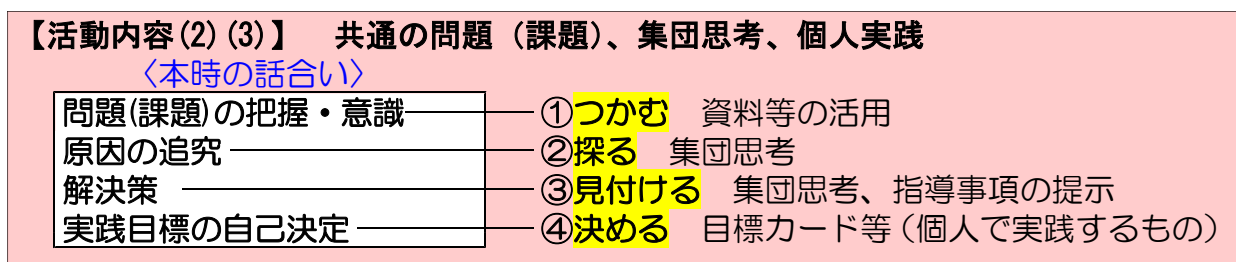
【活動内容(2)(3)の場合】

活動内容(2)(3)の話し合い活動では、児童生徒が自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう生徒指導の機能を生かす展開の工夫が必要です。そこで、「つかむ」→「さぐる」→「見付ける」→「決める」という4段階の流れで思考させ、多様な考えを聞きながら、児童生徒一人一人が自分に合った具体的なめあてや方法を自己決定できるようにします。

4つの段階を踏まえた展開

- 1 つかむ** 教師から提示された課題を自分の課題として受け止める。
教師から提示された資料等により、自身の問題意識を高める。
- 2 探る** 原因を追究し、解決への意識を高める。
問題の原因となっているものをみんなで考え、探っていく。
- 3 見付ける** 話し合いを通して解決方法を考える。
みんなの考えや意見を聞いて、みんなで解決方法を考えていく。
- 4 決める** 自己の努力目標を決める。
自分に合った具体的なめあてや方法を決定する(自己決定)。

活動内容(1)の3段階、活動内容(2)(3)の4段階、それぞれを踏まえた展開の流れをまとめて図示すると、次のようになります。




⑥ 意見が分かれた場合の対処

話し合い活動の進行上、意見が分かれることが予想されます。そのようなときの対処について考えてみましょう。

意見が分かれた場合の対処



こんなふうにしたらどうかな?

- 1 複数の意見のよいところを合わせる**


Aの意見 □□□□
Bの意見 ■■■■
1つに決めたいなあ。


→

Aの意見 □□□□
Bの意見 ■■■■
2つのよいところをつないで
Cの意見 □□■■■


- 2 中心となる意見に補う**


Aの意見 □□□□
Bの意見 ■■
Aに賛成が多いけど、Bにもいいところがあるよ。



→

Aの意見 □□□□
Bの意見 ■■
BのよいところをAに補って
新Aの意見 □□□■
- 3 少数意見が多数意見に譲る**


Aの意見 □□□□
Bの意見 ■
Aの意見がたくさん出たよ。


→

私がBの意見を出したけど、Aに賛成が多いので、譲ってもいいよ!
Aの意見 □□□□


- 4 多数決を取る**


「多数決」は、なるべく避けたいんですけど、仕方なく行う場合、どんなことに気を付けたらよいでしょうか?

→

 - 全員で話し合いができたかな?
 - 意見が出し尽くされたかな?
 - 穏やかに話し合われたかな?
 - 少数意見を取り上げ、生かそうとしているかな?

次のような児童生徒の姿を目指しましょう!

期待される「具体的な集団討議の姿」

ア 理由を明確にし、自分の言葉で思いや考えを話すことができる。

- イ 誰の話でも、相手の立場に立って真剣に聞くことができる。
- ウ 互いの意見や考えの相違点を理解し合うことができる。
- エ 異なる意見について、説得したり、互いの意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりして、集団としての意見をまとめることができる。
- オ 自分が賛成していないことに決まっても、集団決定したことについて、気持ちよく従って協力できるとともに、互いの気持ちを押し量った言動ができる。

⑦ 教師の指導・助言

学級活動（特に活動内容(1)）では、基本的に教師は児童生徒の話合いを見守ることになりますが、人権を侵害する発言があったときや、ねらいや提案理由などから大きく逸れた場合などは、話合いを止めて考えさせるようにします。

話合い途中での指導・助言例

【話合いが進まないとき】

- ◇話合いがずれてないかな。
- ◇まず、何を決めればいいのか。
- ◇発言が特定の人に偏ってないかな。
- ◇反対意見ばかり続いているかな。
- ◇こんな考え方もあるよ。
- ◇近くの人と話し合ってみたら。



【ほめてあげるとき】

※終末で言うか、その場で言うかを考えて…

- ◇それはよい意見だね。
- ◇話合いが進んだね。
- ◇提案理由に合っているね。

※あまり発言しない子に…

- ◇頑張ってよく意見が言えたね。

【学級の一員としてのマナー】

- ◇君もこのクラスの大切な一人。
- 話合いに積極的に参加しよう！
- ◇友だちの意見をしっかりと聞こう！

【ちょっとストップ！】

- ◇お金がかかることは、私が決めます。
- ◇それは危険だから、できません。
- ◇時間割を変えたかったり、学校の施設を使いたかったりする場合は、私に相談してください。

終末の指導・助言例

【決まったことへの承認】

- ◇～に決まったんですね。
- これで楽しい集会になりそうですね。



【司会グループへのねぎらい】

- ◇司会の人も上手でしたし、記録の人手際がよかったですね。

【建設的な発言に対して】

- ◇今までにない、素敵な意見でしたね。

【話合い活動を進める意見に対して】

- ◇司会を助けて、話合いを進めてくれました。

【提案理由に沿ったり、友だちのことを考えた意見に対して】

- ◇みんなのことを考えて意見を言ってくれましたね。

【自分の意見を考え直した意見に対して】

- ◇友だちの意見をしっかりと聞くことができたから、考えが変わったんだね。

【普段、あまり発言をしない子どもの意見に対して】

- ◇〇〇さんが、初めて意見を言ってくれましたね。

学年等の発達段階に適した表現で声を掛けましょう。

⑧ 陥りやすく、予防したいこと

学級活動は、教科外の授業であるため、色々な使い方をされがちな時間です。次のような活動内容は、学習指導要領が示す学級活動としてはふさわしくありません。活動内容(1)(2)(3)それぞれの特質を踏まえた活動が行われるよう心掛けましょう。

- 教科の学習などの学力補充(プリント学習など) ※内容(2)(3)は、学習への適応指導であり、学習指導ではありません。
- 書類等の記入など、事務的な活動(受験書類の作成など) ※集団活動を伴わない事務作業は避けましょう。
- 話合いがなされていない集会活動(学級レクリエーションなど) ※本時の話合い活動を受けて開催します。
- 話合い、自己決定の場面のない社会的スキルを身に付ける活動(指示のみのエクササイズ、アクティビティなど) ※学級活動の特質を踏まえた指導展開を心掛け、手法として効果的な取り入れ方を考える必要があります。